

学生便覧

2025年度

名古屋大学工学部・工学研究科

<https://www.engg.nagoya-u.ac.jp/>



2025年度学年暦

春学期

月	月	火	水	木	金	土	日	行 事 等
4		1	2	3	4	5	6	4/1～9 新入生ガイダンス等
	7	8	9	10	11	12	13	4/5 入学式
	14	15	16	17	18	19	20	4/10～7/23 春学期授業期間
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30					4/30 火曜開講授業の授業日
5				1	2	③	④	5/1 名古屋大学記念日
	⑤	⑥	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	5/17 授業予備日
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	31		
6							1	
	2	3	4	5	6	7	8	(名大祭 6/6 午後～6/9)
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
7								
		1	2	3	4	5	6	7/5 授業予備日
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	7/21 月曜開講授業の授業日
8								7/24～8/6 春学期試験・授業期間
	4	5	6	7	8	9	10	8/7 休業日
	11	12	13	14	15	16	17	8/8～9/30 夏季休業
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30	31	
9								
	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	9/19～30 G30新入生ガイダンス等
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30						9/29 秋季卒業式

※表中の数字丸囲いは、祝日又は振替休日を示しています。
 ※表中の数字四角囲いは、授業予備日を示しています。

秋学期

月	月	火	水	木	金	土	日	行 事 等
10			1	2	3	4	5	10/1 秋季入学式
	6	7	8	9	10	11	12	10/2～2/6 秋学期授業期間
	13	14	15	16	17	18	19	10/13 月曜開講授業の授業日
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31			
11						1	2	
	③	4	5	6	7	8	9	11/8 授業予備日
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	11/27 月曜開講授業の授業日
12								
	1	2	3	4	5	6	7	12/6 TOEFL ITP 試験 (学部3年次)
	8	9	10	11	12	13	14	12/13 TOEFL ITP 試験 (学部1年次)
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	12/27 授業予備日
	29	30	31					12/28～1/7 冬季休業
1				①	2	3	4	
	5	6	7	8	9	10	11	1/8 月曜開講授業の授業日
	12	13	14	15	16	17	18	1/16 大学入学共通テスト準備のため休講
	19	20	21	22	23	24	25	1/17・18 大学入学共通テスト
	26	27	28	29	30	31		1/23、1/27～2/5 秋学期試験・授業期間
2							1	
	2	3	4	5	6	7	8	2/6 月曜開講授業の授業日
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28		
3								
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	3/25 卒業式
	30	31						

学 生 便 覧

2025 年 度

* この学生便覧の内容は、令和7年3月1日現在のものです。
最新情報は、ホームページ、掲示板等をご覧ください。

名古屋大学工学部・工学研究科

本便覧の発行に際して

この学生便覧は、名古屋大学工学部あるいは名古屋大学大学院工学研究科へ入学された皆さんが、学生生活を有意義かつ快適に過ごされ、所期の目的を達成される一助となることを願って編集されたもので、科目履修の手引き及び学生生活の手引きとなるものです。本便覧とは別に全学的な学生生活に関しては、名古屋大学全学の学生便覧があり、全学教育科目の履修に関しては、全学教育科目履修の手引がありますので、必要に応じてそちらを参照してください。

工学基礎教育の重視や専門性と総合性を備えた人材育成の必要性等に伴って、学生生活における諸手続や科目の履修要件、あるいは卒業後の資格取得の条件等が毎年少しずつ変わっております。このため、先輩の助言が役に立たないことがあります。全学の学生便覧とともに本便覧をよく読んで、手続き上の間違いが無いよう心がけてください。

名古屋大学工学部・工学研究科学生支援・国際交流委員会

目 次

1. 工学部における学部教育の理念と体制.....	1
2. 学科, クラス編成, 四年一貫教育の科目区分及び流れ図.....	2
3. 進級要件, 卒業要件等.....	4
4. 履修方法, 試験, 授業.....	5
5. 在学年限, 除籍, 懲戒, 大学院への進学.....	9
6. 指導教員.....	9
7. 学生生活にかかわる一般心得と諸手続【学部・大学院共通】.....	10
8. 経済生活【学部・大学院共通】.....	20
9. 健康管理・保険【学部・大学院共通】.....	23
10. 各種国家試験, 資格試験.....	26
11. 大学院での授業と研究.....	27
12. 関係規程.....	28
13. 講義室等配置図.....	29

学生の皆さんへ

本学では、近い将来の南海トラフ地震など広域の大規模地震災害等の発生時において、学生及び教職員の安否確認を迅速かつ効果的に実施するため、名古屋大学安否確認システム（ANPIC）を導入しています。

また、このシステムを利用し災害時の安否確認だけでなく、緊急時の重要な連絡手段とした一斉メール送信等にも活用しています。安否確認システムには、機構メールアドレスが自動的に登録されます。

詳細については、名古屋大学災害対策室「名古屋大学安否確認システム（ANPIC）」のホームページを参照してください。

名古屋大学

インターネットによる工学部・工学研究科に関する情報閲覧について

○工学部・工学研究科のホームページから、シラバスや時間割、定期試験の日程などを見ることができます（在学生向けのページを見てください）。

URL・・・<https://www.engg.nagoya-u.ac.jp/>

1. 工学部における学部教育の理念と体制

1. 1 基本理念

名古屋大学は自由闊達な学風の下、創造的な研究と自発性を重視する教育を実践することによって、論理的思考力と想像力に富み、機会を「つかむ」、困難に「いどむ」、自律性と自発性を「育む」ことのできる勇気ある知識人の育成を目指している。この大学としての基本理念を前提に、工学部では、工学を拓くための学力および資質・能力を備え、科学に対する強い興味をもとに社会に貢献する人材を育成する。このため学部教育の目的を「確固たる基礎力を有し、総合力・創造力を備え、広い国際的視野を持ち、社会からの要請に応え、イノベーションを創出できる“勇気ある知識人”の育成を行う」としている。単に基礎学力・専門知識の教育にとどまらず、社会・文化の発展を見極め、自己の専門分野の枠を越えて、広く工学の手法を応用できるように工学全般にわたっての知識を修得させることにも留意している。

この目的を達成するために、次のような、学部4年間を通じて一貫した、総合的な学部教育システムを採用している。

- (1) 科学的な基礎知識と工学基礎の充実。
- (2) 人文・社会科学等の関連する学問分野についての幅広い視野の確立。
- (3) 基礎知識を柔軟に適用する豊かな応用力の養成。
- (4) 将来の創造性につながる基礎学力と技術・研究のあり方に対する基本的な素養の養成。
- (5) 十分な基礎習得を経た後の柔軟な専門分野の選択「Late Specialization」。

工学部の教育カリキュラムは学部卒業後、大学院に進学しさらに高度な学問分野の修得と研究を行う学生のために必要な基本的な内容を網羅するとともに、大学院の教育カリキュラムとの密接な関係を持つように配慮されている（3+3+3型教育システム）。

1. 2 学部教育組織

〔学 科〕

工学部では、学部教育の強化充実、一般教育と専門教育を融合した4年一貫教育の推進、工学教育の充実を図るため、平成29年度に工学部・工学研究科の組織を一体で改革した。学部教育のみならず大学院教育の一層の充実を図るため、入学者の就学希望と産業界の意向を併せ、双方にとってわかりやすく、日本の産業基盤を支える技術の維持発展も目指す学科構成とし、基礎教育が共通する研究分野を統合して7学科に再編した。

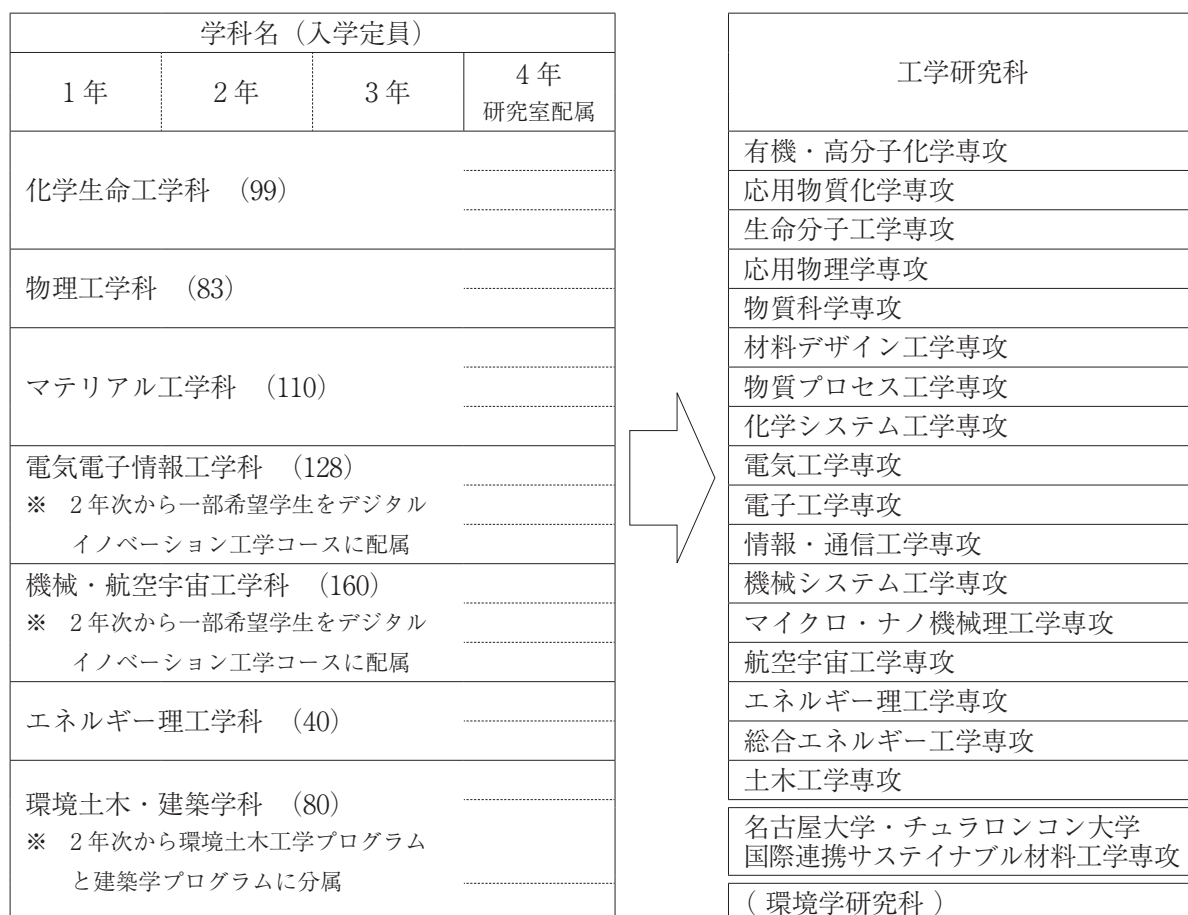
新しい組織は、広い視点に立った工学の専門分野に応じた「学科制」であり、次の表に示すように、各学科には基礎教育が共通する複数の大学院専攻が直結する形で配置されている。学生は3年生までに十分な基礎を学修したのち、自身の興味や適性を考慮し、進学を希望する大学院専攻を視野に入れて専門分野を選択する。学部4年生と博士前期課程とあわせて3年間でその分野の学習を深化させる。さらに博士後期課程の3年間でさらに高度な専門教育を受けることができる（3+3+3型教育システム）。

なお、名古屋大学では平成23年度より英語のみで卒業・修了可能な国際コースを設置している。

2. 学科，クラス編成，四年一貫教育の科目区分及び流れ図

2.1 学科の編成

工学部の学生は1年次から学科全体で共通的基础教育を受ける。学年の進行に従って共通的な専門分野を学びつつ、3年次までに様々な専門分野に対応できる能力を身に付ける。学科の内容を十分理解し、自身の興味や自らの適性を判断したうえで、4年次に卒業研究を行うための研究室配属という形で希望する専門分野を選択する。



2.2 クラス編成

- (1) 全学教育科目のクラス編成の詳細は「全学教育科目履修の手引」を参照してください。工学部は19クラスから成っています。
- (2) 工学部共通科目（工学部の数学や力学など）のクラス編成は、学科を中心として行っており、次表の10クラスになります。

学 科	人 数	クラス数
化学生命工学科	99	1
物理工学科	83	1
マテリアル工学科	110	2
電気電子情報工学科	128	2
機械・航空宇宙工学科	160	2
エネルギー理工学科	40	1
環境土木・建築学科	80	1
合 計	700	10

2.3 授業科目

全学教育科目は次のとおりです。(() 内は、卒業に必要な単位数)

- ・「大学での学び」基礎論 (1 単位)
- ・基礎セミナー (2 単位)
- ・言語文化 (13 単位以上)
- ・健康・スポーツ科学 (2 単位)
- 合計 (45 ～ 49 単位)*
- ・データ科学科目 (2 単位)
- ・アントレプレナーシップ科目 (1 単位)
- ・国際理解科目、現代教養科目 (人文・社会系及び学際・融合系)、超学部セミナー (4 単位)
- ・自然系基礎科目 (20 ～ 24 単位)

* () 内の単位数は、開講される全学教育科目単位数のうち、卒業に必要な単位数で、各学科で異なります。

工学部で開講される専門系科目は次のとおりです。

- ・専門基礎科目 (31 ～ 49.5 単位)*
- ・関連専門科目 (1 ～ 8 単位)*
- ・専門科目 (34 ～ 49 単位)*
- 合計 (84 ～ 89.5 単位)

* () 内の単位数は、開講される専門系科目単位数のうち、卒業に必要な単位数で、各学科で異なります。

2.4 四年一貫教育の流れ図

各学年毎に履修可能な科目分類を示します。四年一貫教育の主旨に沿い専門科目が1年次から開講されており、全学教育科目の卒業要件の必要単位数は2年次までに修得することが望まれます。

1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次
「大学での学び」 基礎論 1 単位			(卒 業 研 究) 10 単位
基礎セミナー 2 単位	専門基礎科目 31 ～ 47 単位	専 門 科 目 34 ～ 49 単位	
データ科学科目 2 単位			
アントレプレナーシップ科目 1 単位			
自然系基礎科目 20 ～ 24 単位			
言語文化科目 13 単位以上			
健康・スポーツ科学科目 2 単位		関連専門科目 1 ～ 8 単位	
国際理解科目、現代教養科目 (人文・社会系及び学際・融合系)、超学部セミナー 4 単位			

3. 進級要件，卒業要件等

3. 1 進級要件

工学部の自然科学系を主体とした授業科目は積み上げ方式となっていて、段階を追った科目修得が必要であるため、2年次から3年次への進級制度を設け、以下の要件を課しています。

・3年次への進級

2年次終了時に、全学教育科目を40単位以上修得しなければなりません。但し、この中に言語文化科目11単位以上、自然系基礎科目18単位以上を修得していなければなりません。

言語文化科目については、英語及び初修外国語（多言語習得基礎及びドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語のうちから1外国語（外国人留学生は

日本語でもよい）から11単位以上修得しなければなりません。

自然系基礎科目の物理学実験2単位は必修です。

3. 2 卒業研究を行うための条件

4年次において卒業研究を行うためには、一定の単位修得等の条件を課しています。この条件は学科あるいは履修プログラムごとに異なりますので、各学科及び履修プログラムのガイダンスに注意してください。

3. 3 卒業要件

卒業要件はほぼ下表の通りですが、学科あるいは履修プログラムによって異なります。詳細は工学部・工学研究科ホームページTOP→在学生の方へ→学部に掲載されている各学科の卒業要件を参照してください。

科 目 区 分			必要最小単位数	
学部科目	専門系科目	専門科目	34 ～ 49	
		関連専門科目	1 ～ 8	
		専門基礎科目	31 ～ 49.5	
		合 計	84 ～ 89.5	
全学教育科目	共通基礎科目	「大学での学び」基礎論	1	
		基礎セミナー	2 以上	
		言語文化科目	13 以上	
		健康・スポーツ科学科目	2 以上	
		データ科学科目	2	
		アントレプレナーシップ科目	1	
	教養科目	国際理解科目	2 以上	4 以上
		現代教養科目（人文・社会系及び学際・融合系）		
		超学部セミナー		
	分野別基礎科目	自然系基礎科目	20 ～ 24	
	合 計		45 ～ 49	
総 計		133 ～ 138.5		

(注) 必要最小単位数が～の記号で示されているのは、学科や履修プログラムによって要求単位数が異なることを意味し、修得単位数をこの範囲に収めることを意味するものではない。

- ・修業年限 原則として4年以上
- ・在学年限 8年以内。在学年限に達しても卒業できない者は除籍する。
- ・休学期間 通算して4年以内。

4. 履修方法, 試験, 授業

4. 1 履修方法

[1] 履修計画

学生は、工学部専門系科目については授業科目一覧に記載してある専門基礎科目、専門科目、関連専門科目の必修科目、選択必修科目（学科によってはこの科目のない学科がある）および選択科目について、学期ごとに示される授業時間割と修得科目確認表に基づき履修計画をたてて履修してください。

[2] 履修手続（工学部規程第15条）

(1) 学生は、学期始めに履修手続をしなければなりません。全学教育科目の手続きについては「全学教育科目履修の手引」を参照してください。Webを活用した教務システムで履修登録を行います。名古屋大学ポータル (<https://portal.nagoya-u.ac.jp/>) にアクセスし、履修を希望する科目を入力してください。履修登録した授業科目は、Web上で確認することができますので、必ず確認してください。確認の上、誤りがある場合は、履修科目の修正をしてください。詳細については、その都度掲示や工学部のホームページで周知するので、特に学期始めの掲示等には十分注意してください。

(2) 履修手続をして、その年度で単位修得できなかった場合において、その科目を次年度で改めて単位修得を希望する者は、新たに手続しなければなりません。

(3) 通年講義の科目（例えば、春学期から始まって秋学期まで引き続く科目、又はある学年の秋学期から始まって次学年の春学期まで引き続く科目）を受講希望する場合には、必ず毎学期履修手続をしなければなりません。

(4) 履修登録を行ったが、何らかの事情により履修する意思がなくなった科目について、学生から意思表示として、所定の期限（※）までに授業担当教員へ履修取り下げの届出を行うことができます。

工学部専門系科目では、実験、演習、実

名古屋大学ポータル
(<https://portal.nagoya-u.ac.jp/>)



習科目において履修取り下げの届出を行うことができます（講義、講義及び演習科目では、届出を行うことができません）。

※原則、春学期にあつては5月末までに、秋学期にあつては11月末までに授業担当教員に申し出が必要です。

(5) 所属学科の授業科目に掲載されていない他学科又は他学部で開設する授業科目を履修したい場合は、履修願を別途工学部の教務課履修窓口へ提出しなければなりません。

[3] 履修登録単位数の上限設定（キャップ制）について（工学部規程第15条第3項）

大学の単位制度においては、1単位は授業時間外の予習・復習を含めて45時間の学修をもって構成されています。仮に、1学期に40単位を取得しようとする、月曜日から金曜日まで、1回90分の授業を1時限目から4時限目まで受講し、これに加えて予習・復習をこなす必要がありますので、相当な学修時間を要することになります。

本学では、学修する授業科目・単位数を精選することで十分な学修時間を確保して、内容を真に身につけられるようにし、各年次にわたって適切に授業科目を履修してもらうことを目的とし、履修登録単位数の上限設定（「キャップ制」）を設けています。

工学部では、履修登録単位数の上限を1学期につき34単位以下としています。ただし、直前の学期のGPAが3.50以上の場合、もしくは学科長が特に認めた場合に、次学期開講授業の履修登録に際して、1学期につき34単位を超える履修を認めています。また、以下の科目については、履修登録上限単位数に含めないものとしています。

- ・教員免許状取得に関する科目
- ・集中講義科目
- ・通年開講科目
- ・単位互換科目（海外、オンラインを含む）

- ・外国語検定試験認定科目
 - ・入学前の既修得単位認定科目
 - ・特別履修科目
- (※他学部・他学科科目は上限単位数に含める。)
- さらに、3年次編入生については履修登録単位数の上限を設けていません。

4. 2 試験

[1] 受験手続

学期始めの履修手続が受験手続を兼ねています。

- (1) 学期始めに履修手続をしなかった者は、受験することはできません。またたとえ受験したとしても、単位の認定はされないの
で十分注意してください。
- (2) 履修手続をした学科目で不合格となった
場合、次年度において受験しようとする者
は、再度学期始めに履修手続をしてください。

[2] 試験

工学部規程第17条、第19条及び第21条に
基づく定期試験の試験科目、日時、その他必要
事項は、その都度掲示等によって指示されます。

- (1) 定期試験は、次の区分により行われます。

春学期 7月24日～8月6日

秋学期 1月23日～2月6日

- (注1) 定期試験の期間については、科目によって1週間前から行う場合もありますので、掲示等に十分注意してください。
(注2) 定期試験の時間帯については、掲示等に十分注意してください。

[3] 成績評価

- (1) 毎学期の定期試験の結果は、既に修得済
みの成績を含め Web 上で修得科目確認表
により確認できます。
- (2) 成績は A+、A、B、C、C- 及び F とし、
A+、A、B、C 及び C- を合格、F を不
合格とします。ただし、この区分による成績
認定が不能な科目に関しては、P (合格)・
NP (不合格) の2区分になります。

また、他の大学等で履修し、本学で単位
認定をした授業科目や検定試験における成
績を本学の授業科目とみなして単位を認定
するものに関しては、T (認定) となる場
合があります。

- (3) 工学部専門系科目の実験、演習、実習科
目において履修取り下げの届出を行った科
目の成績評価は、原則、「F (不合格)」で
はなく「欠席」になります。

- (4) 一度修得した単位は、学生の希望によ
って取り消すことはできません。また同一科
目をさらに履修しても卒業要件としての単
位は与えられません。

- (5) 本学においては、GPA (Grade Point
Average) 制度を次のように導入しています。

・GPA を次式で定義します。

GPA=

$$\frac{4.3 \times A + \text{取得単位数} + 4.0 \times A + \text{取得単位数} + 3.0 \times B + \text{取得単位数} + 2.0 \times C + \text{取得単位数} + 1.0 \times C - \text{取得単位数}}{A + \text{取得単位数} + A + \text{取得単位数} + B + \text{取得単位数} + C + \text{取得単位数} + C - \text{取得単位数} + F \text{ 科目単位数}}$$

・履修登録はしたが、欠席した授業科目は
GPA には算入しません。

・P (合格)・NP (不合格) により成績評価
された授業科目は GPA には算入しません。

・他の大学等で履修し、本学で単位認定を
した授業科目は GPA には算入しません。

・随意科目等の卒業要件に関わらない授業
科目については、6段階により成績評価
がなされますが、GPA には算入しません。

・F の評価を受けた授業科目を再度履修し
て、その成績評価が A+、A、B、C、C-
又は F であった場合、再履修前の F 評価
は累積 GPA には算入しません。

・各学期末に成績が確定する毎に、当該学
期の「学期 GPA」と計算し直した「累
積 GPA」を成績表に記載します。

※「学期 GPA」・・・当該学期の取得単位数及び F 科目
を対象としたもの。

※「累積 GPA」・・・入学時から当該学期までの取得単
位数及び F 科目の累計を対象としたもの。

- (6) 成績評価に関して、疑義が生じた場合
は、授業担当教員へ問い合わせることがで
きます。成績が発表された日から原則3日
以内に、担当窓口 (全学教育科目について
は教養教育院事務室、専門系科目について
は工学部教務課) へ「成績評価照会票」(様
式は名古屋大学ポータルからダウンロード
できます。) を提出してください。

なお、成績評価が記載されていない科目
についても、直接上記担当窓口までお問い

合わせください。

〔4〕 追試験

病気その他やむを得ない事由により試験を受けることができなかったときは、その理由を記し、当該試験の実施日から起算して1週間以内に学部長に追試験願を提出してください。

審査の結果、正当な理由があると認められた場合には、追試験によって単位を与えられることがあります（工学部規程第23条第1項）。

〔5〕 再試験

第4年次秋学期以降の定期試験終了後、不合格の授業科目が工学部専門系科目のうち3科目10単位以内の者で、その試験に合格することによって、卒業資格を得ることができます者に限り、再試験を受けることができます（工学部規程第23条第2項）。

〔6〕 試験における不正行為について

試験の際、不正行為を行ってはなりません。万一不正行為があったときは、教授会は規定により、厳正な措置を決定し、厳しい処分等（単位取消、退学、停学あるいは訓告）を行います。不正行為が発覚した場合には、当該学生が、当該学期に修得した全授業科目の単位を原則として不認定とします。

4.3 授業

授業時間は90分です。

各時限の時間帯は下記の通りです。

1 時 限	8 : 45 ~ 10 : 15
2 時 限	10 : 30 ~ 12 : 00
3 時 限	13 : 00 ~ 14 : 30
4 時 限	14 : 45 ~ 16 : 15
5 時 限	16 : 30 ~ 18 : 00

4.4 自然災害等に伴う授業及び定期試験の取扱い

台風又は地震等による災害が発生した場合、若しくは発生のおそれがあり警報等の情報が発表された場合の工学部・工学研究科の授業及び定期試験（追試験及び再試験を含む。以降「授業等」という。）の取扱いは、原則として、次の通りとする。

〔1〕 名古屋市内に台風等に伴う暴風警報、あるいは各種特別警報が発表された場合

台風に伴い名古屋市に暴風警報、あるいは各種特別警報が発表された場合は、これらの警報発表後に開始される授業等は休講とする。

この場合において、警報解除後における授業等の実施については、別表の通りとする。

〔注意事項等〕

- 1) 暴風警報が発表された際、既に大学に登校している場合は、経路の安全を確認し、危険な状況になる前に帰宅してください。
- 2) 登校途中に暴風警報が発表された場合は、登校せず、帰宅してください。
- 3) ICTによる遠隔授業等は原則として休講になりません。この場合は講義のホームページや東海国立大学機構LMS（Learning Management System）であるTokai Academic Combination Tools（通称「TACT」）で開講状況を確認してください。
- 4) 随時更新される以下の気象庁ウェブサイトを確認してください。
<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>
- 5) 上記1)、2)により授業日に登校しなかった場合は、その旨を後日遅滞なく担当教員に申し出ることとする。なお、この場合、欠席した学生に対して教育的配慮を行うこととする。
- 6) 上記1)、2)により定期試験等の実施日に登校しなかった場合は、1週間以内に教務課にて所定の手続きにより追試験を願うことができる。

〔2〕 地震・火災が発生した場合

授業等の最中に地震等が発生した時は、地震等の規模や周りの状況を冷静に判断し、まず、身の安全を図る。

その後、授業等を速やかに中断し、学生は授業担当教員の指示に従い、指定された一次避難場所へ避難する。避難後は大学の指示に従う。

〔3〕 南海トラフ地震臨時情報が発表された場合

2019年5月31日から「南海トラフ地震臨時情報」が発表されることになりました。この情報が発表された場合の対応は、国や地方自治体でも検討中ですが、授業の実施や帰宅などについては大学の指示に従って行動し、あわせて各自で情報収集に努めて安全を確保してください。なお、対応方針については今後追加・変更される可能性がありますので、

注意してください。

〔4〕 その他、災害が発生した場合、若しくは
発生のおそれがある場合

上記以外の場合において、授業等を実施することが困難であると判断されるときは、工学研究科長が休講措置等の判断を行い、その情報をホームページ及びTACT等により通知する。

別表〔暴風警報・各種特別警報解除後の授業の実施〕

警報解除時刻	授業等開始時限
6:45 まで	第1限
以後 11:00 まで	第3限

5. 在学年限，除籍，懲戒，大学院への進学

5. 1 在学年限

【学部】在学年限は、休学期間を除き8年です。8年間で卒業できない者は除籍します。

ただし、進級制度（4頁参照）により、6年間で3年に進級できない者は除籍します。

【博士前期課程】在学年限は、休学期間を除き4年です。

【博士後期課程】在学年限は、休学期間を除き6年です。

5. 2 除籍，懲戒

【学部】名古屋大学通則第33条、第34条を参照してください。

【大学院】名古屋大学大学院通則第36条、第37条を参照してください。

5. 3 学部卒業後に大学院へ進学する制度

8月下旬に大学院への入学試験が行われます。大学院は工学研究科博士課程と呼ばれ、前期課程に入学しこの課程を修了すると修士（工学）の学位が授与されます。

後期課程を修了すると博士（工学）の学位が授与されます。

前期課程、後期課程ともに、審査に合格すれば、短縮修了することも可能な制度があります。

5. 4 学部卒業前に大学院へ進学する制度

本学大学院は「大学に3年以上在学し、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者」に対して、早期から大学院教育を実施する途を開いています。受験希望者は5月中旬までに、教務課入学試験係へ問合せてください。

6. 指導教員

各学科の学年担当がその学年の学生の指導教員です。指導教員は、主として退学や休学等の学生の身分に関する事柄を扱います。この他、勉学、進路、生活、一身上の問題に関する相談は別の指導教員が対応する学科もあります。各学科の学年担当は、以下のURLに掲載されているので、参照してください。

工学部・工学研究科ホームページ TOP → 在学生の方へ →
学生生活 → 学生便覧 → 指導教員一覧

7. 学生生活にかかわる一般心得と諸手続【学部・大学院共通】

(履修関係の手続については5頁及び6頁参照)

7.1 学生証

学生証は、本学学生であることを示す唯一の身分証であるだけでなく、証明書発行機での認証、大学図書館への入館・健康診断受診・学内イベントへの入場等に必要となりますので、常時携帯し、大切に扱ってください。万一、紛失、破損した場合には、すみやかに学生証再交付願を提出のうえ、教務課で手続きを行ってください（即日発行はできません）。※学生証の再発行には原則実費がかかります。

なお、傷や破損がなく、磁気カードリーダーでの認証のみ出来なくなった場合は、再交付を必要とせず回復できる場合もありますので、窓口で相談してください。

7.2 名古屋大学 ID

名古屋大学無線ネットワーク (NUWNET) や情報メディア教育システムの端末を使用する場合は、名古屋大学 ID 及びパスワードが必要です。名古屋大学無線ネットワーク (NUWNET) を始めとするウェブサービス

は、認証アプリ (PC/スマートフォン) に表示されるワンタイムパスワードを利用した多要素認証となっております。以下の URL を参照し、事前に認証アプリのセットアップを実施してください。

<https://icts.nagoya-u.ac.jp/ja/services/nuid/CAS/>

名古屋大学無線ネットワーク (NUWNET) をはじめとする名古屋大学 ID を用いた学内情報サービスを利用するためには、「新入生情報セキュリティ研修」に合格することが必要です。名古屋大学 ID を受領後に速やかに実施してください。

学内情報サービスを利用する者の義務として、在籍期間中、毎年度、「年次情報セキュリティチェック」を行う必要があります。詳しくは <https://icts.nagoya-u.ac.jp/ja/security/annual-check.html> をご参照ください。

名古屋大学 ID に関しては、情報メディア事務室 (e-office@media.nagoya-u.ac.jp) までお問い合わせください。

7.3 機構アカウント

機構メールの利用や PC・スマートフォンで Office ソフトウェアを利用する場合、または、名古屋大学ポータルにログインする場合は、機構アカウント及びパスワードが必要です。

機構アカウントの入手方法や初期設定手順について、詳しくは情報連携推進本部の特設ページ https://icts.nagoya-u.ac.jp/ja/services/setup_info_for_new_members.html をご参照下さい。

セキュリティ強化のため、機構アカウントでは多要素認証の利用が必須となっています。多要素認証への対応にあたり、スマートフォン用認証アプリの利用を推奨していますが、電話 (ショートメール、自動音声通話) を利用することも可能です。詳しくは上記の特設ページをご参照下さい。

機構アカウントに関しては、機構アカウントヘルプセンターに詳細な情報を掲載しています。
機構アカウントヘルプセンター：<https://thersac.icts.ac.jp/hc/ja>

7. 4 各種証明書

各種証明書は、証明書自動発行機またはオンライン申請等で発行可能です。

(1) 自動発行機で発行できる証明書（次ページの一覧参照）

証明書の自動発行の際は、学生証とパスワードの入力が必須です。パスワードは名古屋大学 ID のパスワードです。不明な場合には「7. 2 名古屋大学 ID」の項目を参照してください。

【発行機利用可能日時】8時30分～17時15分（土日祝日等の大学の休業日を除く）

※メンテナンス等により一斉に利用を停止することがあるので、必要な証明書等は数日間の余裕をみて発行するよう、日頃から心がけてください。

オンライン申請については、以下の URL に掲載されているので、参照してください。

<https://mado.adm.nagoya-u.ac.jp/syomei>



(2) 自動発行機で発行されない各種証明書申請について

- ・まずは、教務課の窓口、もしくは以下の問合せ先にメールにて連絡してください。
- ・発行には、申請を受け付けた日（申請受け付けた旨大学から連絡のあった日）から、3日～5日（場合によってはそれ以上）かかります。（土日祝日、夏期・冬期休業中を除く）
- ・即日発行はできませんのでご注意ください。
- ・本人の申請を原則とします。

問合せ先：shoumei-kou @ t.mail.nagoya-u.ac.jp

【証明書自動発行機で発行できる証明書】

※内部進学者のみ発行可

対 象	和文・英文		種 類	証明書発行機設置場所
学部生 (正規生)	和文		在学証明書	
			学部成績証明書	
			健康診断証明書	
			卒業見込証明書(最終修業年限のみ)	
			学割証	
	英文		在学証明書	
			学部成績証明書	
			健康診断証明書	
大学院生 (正規生)	和文	MC	在学証明書	
			学割証	
			健康診断証明書	
			学部成績証明書※	
			学位証明書(学士)※	
			博士前期成績証明書	
			修了見込証明書(最終修了年限のみ)	
		DC	在学証明書	
			学割証	
			健康診断証明書	
			学部成績証明書※	
			博士前期成績証明書※	
			博士後期成績証明書	
			学位証明書(学士)※	
	学位証明書(修士)※			
	英文	MC	在学証明書	
			健康診断証明書	
			学部成績証明書※	
			博士前期成績証明書	
			学位証明書(学士)※	
		DC	在学証明書	
			健康診断証明書	
			学部成績証明書※	
			博士前期成績証明書※	
博士後期成績証明書				
学位証明書(学士)※				
学位証明書(修士)※				

〈上記以外は窓口申請へ〉

*証明書の有効期限は通常3ヶ月です。

7. 5 定期券

通学定期券は、原則として自宅と大学との最寄り駅（停留所）間のみについて、発行されます。

JR、名鉄、近鉄その他の鉄道やバスの定期券を購入する場合は大学で発行する「通学定期券発行控」（教務課（ES 総合館 3F）で受取可能）と「学生証」を定期券発行窓口で提示してください。詳細については各鉄道・バス会社へ問い合わせてください。

なお、名古屋市交通局の定期券は、「学生証」を定期券発行窓口で提示すれば購入できます。（希望する区間・経路で購入することが可能です。）但し、他の公共交通機関との連絡定期を購入する場合、「通学定期券発行控」が必要となります。

※詳細については名古屋市交通局ウェブサイトを確認してください。

7. 6 学校学生生徒旅客運賃割引証（自動発行機により発行）

(1) 学校学生生徒旅客運賃割引証（以下「学割証」という。）は、特に教育奨励の見地から、実習又は帰省旅行の便宜を図るために設けられた制度で、現在、JR 各社（航路、自動車線を含む）は 100 キロを超える区間について 2 割引で運賃の適用を行っています。（急行・特急料金は割引されません）。この趣旨を生かして、適切に利用してください。

(2) 学割証の無効について

学割証は、次の場合は無効として回収されます。

なお、不正に使用した学生は、それ以後の交付が停止され、運賃の 3 倍の料金が追徴されることがあります。

1. 記入事項が不明なとき。
2. 記入事項をぬり消し、又は改変したものを使用したとき。
3. 有効期間を経過したものを使用したとき。
4. 記名人以外の者が使用したとき。
5. 有効期間内であっても使用資格を失った者が使用したとき。

7. 7 掲示

連絡は、原則として TACT による周知及び公用掲示板(Web 掲示含む)への掲示をもって行っています。常に、TACT 及び工学部教務課や所属学科・専攻の公用掲示板（Web 掲示含む）を必ず見てください。掲示を見ないことによって受ける不都合、不利益は学生自身の責任となりますので注意してください。

なお、情報連携推進本部の提供する機構メールサービスを用いて大学構成員（教職員・学生）間の電子メールの利用も広く行われていますので、活用してください（名古屋大学 ID が必要です）。

また、名古屋大学ホームページからインターネットによる学内情報の検索もできます。（名古屋大学学生便覧参照）

7. 8 届出事項（教務課）

教務課への主な届出事項として以下のものがあります。「学生証の再交付」、「履修関連」、「学籍異動（休学、休学延長、復学、退学）」、「住所変更」、「保証人変更」、「改姓（改氏名）」、「その他戸籍の異動」等。

大学院生の場合には、入学後の所属専攻のガイダンスで学生個票を必ず提出してください。また、住所連絡先等を変更したときは、その都度所属の専攻事務室及び教務課で記載内容の修正を行ってください。

改姓（改氏名）をした時は、戸籍謄本を添えて、教務課学生支援係へ届け出てください。

7. 9 海外渡航時の届出について

名古屋大学のすべての学生は、交換留学、語学留学、学会、私事渡航（観光旅行・留学生の一時帰国等）等を含むすべての海外渡航について、下記①海外渡航データベースへの登録と「海外渡航届」の提出および②外務省海外旅行登録「たびレジ」への登録が必要となります。

これは、海外での災害、テロ・感染症等の緊急事態が発生した場合に、皆さんへの注意喚起や安否確認を迅速に行うためのものです。安否確認はより迅速な対応が求められるため、原則いかなるケースにおいても必ず渡

航情報の登録と届出を忘れずに行うようにしてください。

海外へ渡航することが決定したら、海外渡航出発の1ヶ月前までに必ず①および②の手続きを済ませてください。

①海外渡航データベースへの登録と「海外渡航届」の提出

- ・名古屋大学 ID とパスワードでログインし、渡航情報を入力してください。
- ・入力の際には、出発前・渡航先の連絡先(住所や電話番号など)や、パスポート情報(番号や期限など)が必要です。事前に手元に情報を置いたうえで入力作業を行ってください。入力を終えたら「海外渡航届」を印刷し、指導教員印をもらった上で、出発の1ヶ月前までに所属の学科・専攻事務室へ提出してください。

(注) 交換留学による海外渡航の場合は「留学願(教務課へ提出)」「海外渡航中の連絡先(所属の学科専攻事務室へ提出)」も提出が必要です。

(注) 渡航により休学する場合は**指導教員の了解を得る等休学に必要な手続きをとった上で**、「休学願」を教務課学生支援係に提出すること(詳細は教務課で確認してください。)

◆海外渡航データベースシステムへのアクセス

<https://tokou.adm.nagoya-u.ac.jp/>



②外務省海外旅行登録「たびレジ」への登録
「たびレジ」とは、緊急時、渡航予定国の在外公館などから情報提供を受けられる海外旅行登録システムで、渡航予定者が登録したEメールアドレスに次の緊急情報や安全情報などが発信されます。

- ・渡航予定国の海外安全情報発出の案内メール
- ・在外公館が発出する緊急一斉通報メール
- ・旅行先国の在外公館の連絡先などお役立ち情報
- ・緊急時の電話連絡(必要に応じて)

- ・外務省渡航登録サービス(滞在期間3カ月未満「たびレジ」、3カ月以上：在留届)

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/RRnet/index.html>

- ・外務省「たびレジ」登録サイト(「簡易登録」サイト)

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/index.html>

《データベースへ入力するメリット》

データベースへ入力すれば、「留学願」「海外渡航届」「海外渡航(留学)中の連絡先(緊急連絡用)」の届出様式をデータベース上からダウンロードすることが可能となり、届出様式に記入する手間が省略できます。

またオンライン入力なので、渡航先を含む学外からもアクセスが可能です。

《名古屋大学のプログラムによる海外留学時の保険加入について》

事前に教務課に必ず相談してください。

海外渡航データベースについての照会先

■届出書類に関すること：

工学部・工学研究科教務課

■データベースへの入力に関すること：

教育推進部学生交流課

E-mail : tokoudb@t.mail.nagoya-u.ac.jp

7. 10 休学、復学、退学、転学

[1] 休学、復学、退学(教務課学生支援係)

1. 休学の期間は3ヶ月以上1年以内で、その後、特別な理由がある場合は引き続き休学できます。ただし、通算して学部は4年、前期課程は2年、後期課程は3年をそれぞれ超えることはできません。
2. 願出の日付は遡及することはできません。希望する期日の遅くとも前々月10日までには書類を整え(必要事項を記入し、所属学科・専攻長と指導教員の押印、授業料納入確認等全て押印済みのもの)、教務課学生支援係において所定の手続きを行ってください。詳細については、工学部・工学研究科ホームページの、在学生の方へ→学籍異動(休学・退学等)の手続についてを参照してください。

3. 願い出を提出する際には、指導教員の承認が必要です。事前に必ず、指導教員と相談してください。
4. 再受験を理由とした休学は認められません。
5. 病気を理由とする休学又は復学の場合は、医師の診断書を添付してください。

[2] 転学科、転学部【学部】

1. 転学科（教務課）

転学科の願い出の時期は原則としてⅣ期中（2年次の秋学期）とし、願い出者の成績、受入れ学科の定員や設備の余裕等をもとにして審査を行います。許可された者は3年次への転学科が認められますが、転学科後の履修に関して条件を付すことがあります。転学科した者は、既に履修した専門系授業科目の単位を、転学科後の学科の卒業所要単位として認定許可の申請をすることもできます。

2. 転学部

転学部の許可の条件は各学部によって異なります。

転学部及び転学科の条件

○名古屋大学通則

第18条 転学部を志望する者がいるときは、学部長は所属学部及び志望学部の教授会の議を経て、転学部を許可することができる。

2 転学部を志望する者がいるときは、学部長は所属学部の教授会の議を経て、転学部を許可することができる。

《本学における転学部・転学科の現状》

転学部は、正確には1・2年次在籍中に限り、一定の条件を満たした場合に承認しています。その一般的な条件としては、第1に、原則として転学部を希望する学部の当該年次に欠員があること、第2に本人の入学試験の成績（大学入学共通テスト及び個別学力検査の両方）が転学部を希望する学部（工学部及び農学部の場合は学科）の定める基準を上まわっていること、第3に、履修状況が良好であること、が必要とされています。

転学部の「願い出の時期」は、各学部によ

り異なるので、当該学部から通知があり次第掲示により周知します。

工学部の転学科の「願い出の時期」は、Ⅳ期末（1月）です。

7. 11 遺失物

工学部・工学研究科における遺失物は、守衛室（ES 総合館1階）又は教務課（ES 総合館3階）で保管しています。落とし物や忘れ物をした場合は、守衛室又は教務課まで問い合わせてください。持ち主が判明しない貴重品は、届けられてから一週間以内に管轄の警察署へ届けます。

工学部・工学研究科において遺失物を拾得した場合は、守衛室、教務課又は最寄りの学科・専攻事務室へ届けてください。

7. 12 災害、事故及び盗難等の防止

学内外で様々な災害や事故に遭遇する可能性があります。平常から安全に留意して、事故を未然に防ぐことを心がけるようにしてください。防火については、万全を期するように努力していますが、学生諸君も、実験室での電気、ガス等の利用度が高いので注意してください。特に帰宅時には学生各自が安全を確認してください。

なお、名古屋大学では、すべての構内は禁煙となっています。

（災害等（傷病）の工学部・工学研究科の連絡体制）

学内外で盗難等の被害があった場合、被害者又は発見者は次の「連絡体制」に記した要領で通報・連絡を行ってください。

学外での事故等は、教務課学生支援係に速やかに連絡してください。

7. 13 自動車及び二輪車・原付の入構・駐車規制、自転車の登録、交通マナーと事故防止

[1] 自動車による通学は、学部学生及び博士前期課程の学生は原則として認められません。博士後期課程の学生で、通学距離等が一定の要件を満たすことが認定された者のみ、許可証が発行されます（有料）。

二輪車（原付含む）による通学を希望する学生は、通学距離等が一定の要件を満たすこ

とが認定された者のみ、許可証が発行されます。

これらの申請については、施設統括部 HP で確認してください。

施設統括部 HP

<https://web-honbu.jimu.nagoya-u.ac.jp/fmd/04safety/chatbot/gakusei.html>



(問合せ先：sis-kou@t.mail.nagoya-u.ac.jp)

[2] 自動車の駐車はもとより、二輪車の駐車・駐輪は所定の場所に決められています。

[3] 所定の場所以外での学生の駐車・駐輪及び構内での交通マナーの低下と頻発する交通事故が全学的な問題となっていますので、本学の交通規則を厳守し、交通事故防止に努めてください。

不法入構・駐車の場合には警告書・警告ポールの取付け又はレッカー車による撤去を行います。また、違反を繰り返した場合には指導教員同伴の上、工学研究科長・工学部長により指導を受けることになります。さらに、警告ポール等を破損した場合には実費負担で弁済が求められます。

[4] 万一、交通事故に関係した場合には(学外の場合は人身事故、学内は全事故)、速

やかに指導教員及び教務課学生支援係まで連絡してください。

[5] 本学では、東山地区構内に乗り入れする自転車を登録制としてステッカーを交付し、入構整理を実施しています。登録を希望する場合は、施設統括部 HP で手続方法等について確認してください。

施設統括部 HP

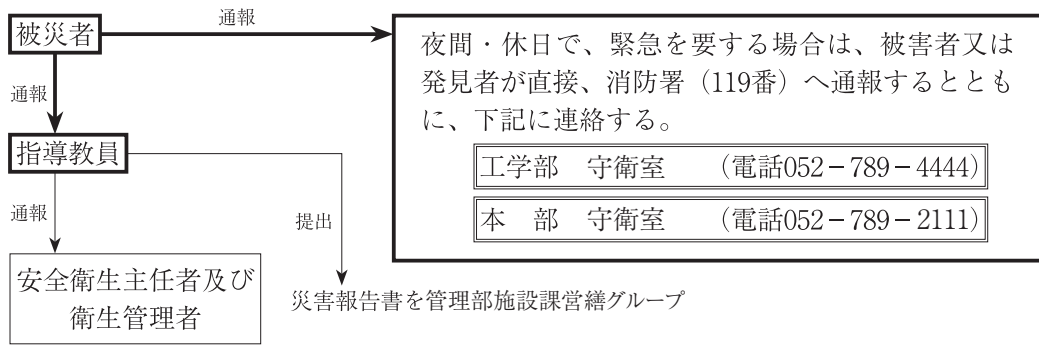
<https://web-honbu.jimu.nagoya-u.ac.jp/fmd/04safety/chatbot/gakusei.html>



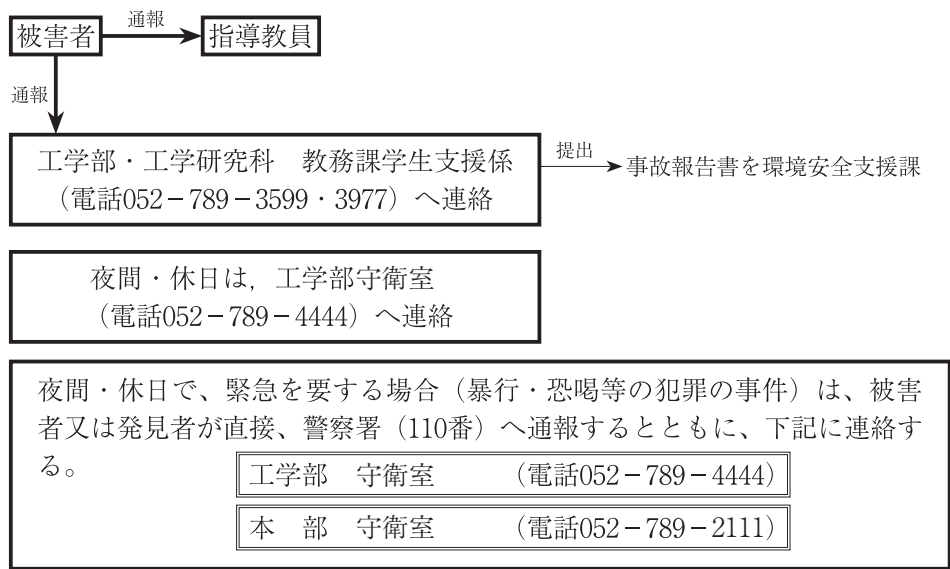
(問合せ先：sis-kou@t.mail.nagoya-u.ac.jp)

[6] 近年、自転車事故で高額の損害賠償を命じられる事例が相次いでいます。被害者の保護とともに、損害賠償責任を負ったときの経済的負担の軽減を図るため、名古屋市では平成 29 年 10 月から自転車損害賠償保険等への加入が義務化(詳細は名古屋市 HP 参照)されました。自転車に乗る方は法令を遵守してください。なお、様々な保険会社等から自転車保険が販売されていますが、火災保険や自動車保険の特約などで既に加入している場合もありますので、まずは今契約している保険の内容を確認してください。

災害等（傷病）の工学部・工学研究科の連絡体制



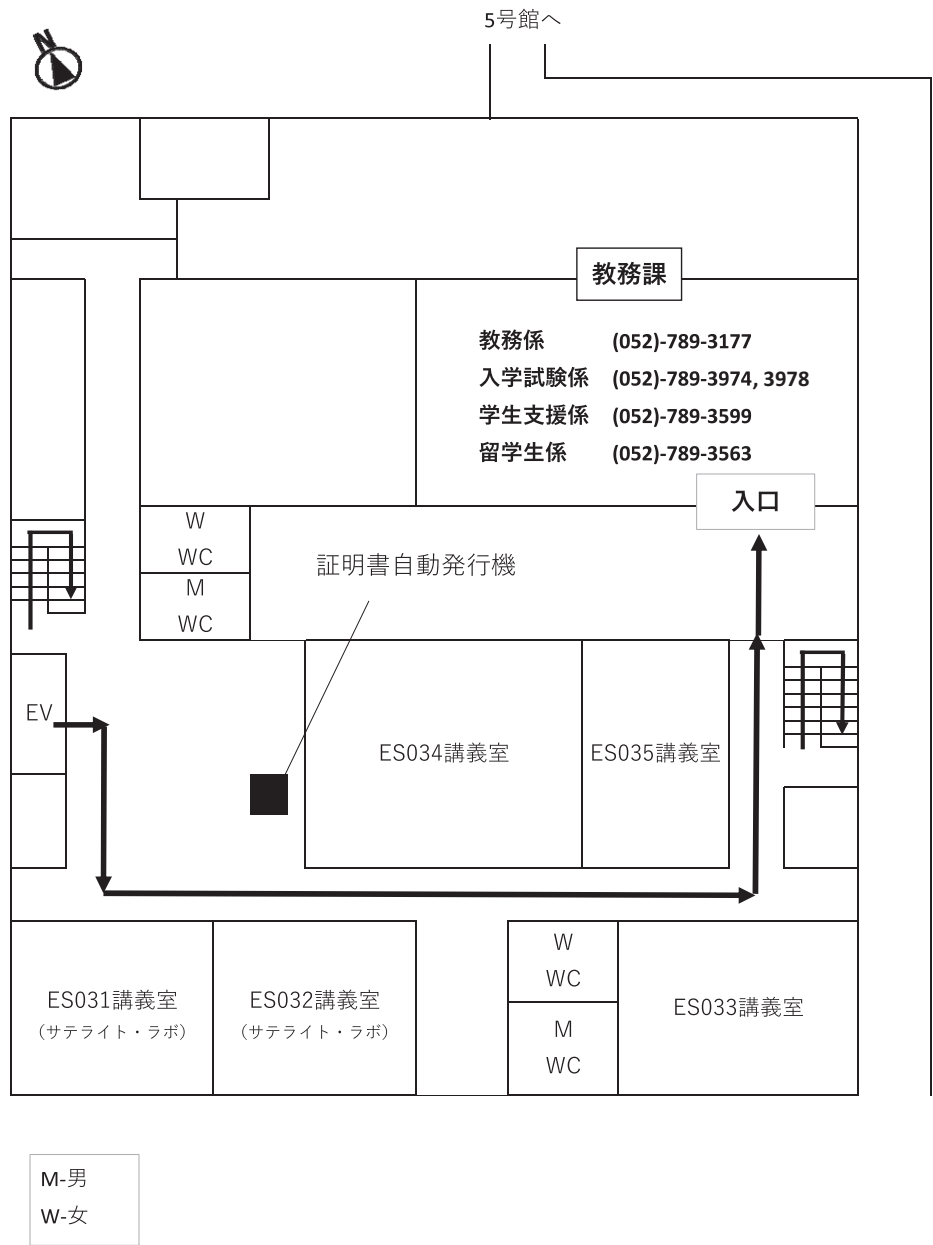
事故等（盗難・暴行・交通事故）の工学部・工学研究科の連絡体制



7. 14 事務組織

課 名	係 名 等	業 務	場 所
教 務 課	教 務 係	1 卒業・修了、転学関係 2 教育課程、授業、試験、学位関係	ES 総合館 3 階
	入学試験係	1 学部学生の入学関係 2 大学院学生の入学関係	
	学生支援係	1 休学、退学関係 2 奨学金など学生生活全般関係	
	留学生係	1 外国人留学生関係 2 海外派遣、留学関係	
財 務 部 資金管理課	収入グループ	授業料納入関係	文系総合館 2 階

工学部教務課配置図（ES総合館 3 階）



（注）全体的な位置は34～36頁以降の「ES総合館 教室等配置図」を参照

7. 15 学科・専攻事務室

工学部	大学院工学研究科	事務室		キャンパス MAP HIGASHIYAMA (P.40, 41)
		名 称	場 所	
化 学 生 命 科 工 学 科	有機・高分子化学専攻	化学生命系事務室	1 号館 2 階 208	エ 1
	応用物質化学専攻			
	生命分子工学専攻			
物 理 工 学 科	応用物理学専攻	物理系事務室	3 号館（中）2 階 246	エ 3 中
	物質科学専攻			
マ テ リ ア ル 工 学 科	材料デザイン工学専攻	マテリアル系 1 事務室 マテリアル系 2 事務室	5 号館 2 階 233 1 号館 2 階 208	エ 5 エ 1
	物質プロセス工学専攻			
	化学システム工学専攻			
電 気 電 子 情 報 工 学 科	電気工学専攻	電気電子情報系事務室	IB 電子情報館（北） 1 階 117	IB 北
	電子工学専攻			
	情報・通信工学専攻			
機 械 ・ 航 空 宇 宙 工 学 科	機械システム工学専攻	機械・航空宇宙系事務室	2 号館（中）3 階 343	エ 2 中
	マイクロ・ナノ機械理工学専攻			
	航空宇宙工学専攻			
エ ネ ル ギ ー 理 工 学 科	エネルギー理工学専攻	エネルギー系事務室	5 号館 2 階 233	エ 5
	総合エネルギー工学専攻			
環 境 土 木 ・ 建 築 学 科	土木工学専攻	環境土木・建築系事務室	(土木) 8 号館（北）1 階 105	エ 8
			(建築) ES 総合館 5 階 502	ES

8. 経済生活【学部・大学院共通】

8. 1 日本学生支援機構奨学金

(<https://www.jasso.go.jp/>)



1. 奨学金の種類と給付・貸与月額

(1) 給付奨学金（学部学生のみ）

非課税世帯およびそれに準ずる世帯または多子世帯の学部学生が対象であり、申請時に提出するマインナンバーより日本学生支援機構が生計維持者の所得情報を取得し審査の上、認定区分を決定します。認定区分毎の給付月額は以下の通りです。

また、給付奨学金に採用された場合は修学支援制度（8. 3 [1]）(1) 参照）の対象となり、授業料等減免の認定申請手続きを行こうことで、認定区分に応じた授業料等減免の支援を受けることができます。

(2024 年度)

認定区分	収入基準	通学形態	給付月額	授業料等減免額(半期)
第Ⅰ区分	本人と生計維持者の市町村民税所得割が非課税であること	自宅	29,200 (33,300)	全額免除 (267,900)
		自宅外	66,700	
第Ⅱ区分	本人と生計維持者の支給額算定基準額の合計が 100 円以上 25,600 円未満であること	自宅	19,500 (22,200)	2/3 額免除 (178,600)
		自宅外	44,500	
第Ⅲ区分	本人と生計維持者の支給額算定基準額の合計が 25,600 円以上 51,300 円未満であること	自宅	9,800 (11,100)	1/3 額免除 (89,300)
		自宅外	22,300	
第Ⅳ区分	本人と生計維持者の支給額算定基準の合計が 51,300 円以上 154,500 円未満であり、かつ生計維持者の扶養する子の数が 3 人以上	自宅	7,300 (8,400)	全額免除 (2025 年度から) (267,900)
		自宅外	16,700	
多子世帯	生計維持者の扶養する子の数が 3 人以上（所得要件なし）(2025 年度から)	—	—	全額免除 (2025 年度から) (267,900)

※給付月額の認定区分は、日本学生支援機構ホームページの下記 URL より、世帯収入等を入力することで確認できます（あくまで目安です）。

※（ ）内の金額は生活保護を受けている場合。

進学資金シミュレーター

<https://shogakukin-simulator.jasso.go.jp/>

(2) 貸与奨学金

奨学金の種類及び貸与月額は以下の通りです。(希望する月額を「貸与月額」欄から選択)

(2024 年度)

種類		貸与月額 (円)
大学第一種奨学生 (無利子) (1) の給付奨学金を受ける学生については、第一種奨学金の貸与月額が右記金額より減額されます。	自宅通学	20,000、30,000、45,000
	自宅外通学	20,000、30,000、40,000、51,000
大学第二種奨学金 (有利子)		2 万円～ 12 万円 (1 万円単位) から選択
大学院第一種奨学金 (無利子)	博士前期課程	50,000、88,000
	博士後期課程	80,000、122,000
大学院第二種奨学金 (有利子)		50,000、80,000、100,000、130,000、150,000

(備考) 条件を満たせば「第一種奨学金」(無利子貸与)と「第二種奨学金」(有利子貸与)の両方の貸与を受けること(併用貸与)もできます。

(3) 奨学生の募集

① 給付奨学金：原則年 2 回 (3 月下旬頃、8 月上旬頃)

② 貸与奨学金：原則年 2 回 (3 月下旬頃、8 月上旬頃)

いずれも募集の詳細は、本学ホームページおよび工学ホームページに掲載し、周知します。

■名古屋大学ホームページ：名古屋大学 TOP → 教育・学生支援 → 経済支援 (授業料等免除・奨学金) → 日本学生支援機構 (JASSO) 奨学金

■名古屋大学工学部・工学研究科ホームページ：工学部・工学研究科 TOP → 在学生の方へ → 経済支援関係 → 奨学金 (JASSO)

(4) 奨学金の受領

奨学金は、直接奨学生の銀行口座に振り込まれます。

(5) 適格認定 (奨学金の貸与資格の有無を問う制度)

最高学年を除き、毎年 12 月から 2 月上旬にかけて「適格認定」が行なわれます。

留年等の場合は適格認定にて貸与停止の措置をとることになります。

(6) 奨学生の異動報告 (工学部教務課学生支援係)

休学、退学、復学、奨学金振込口座の変更、連帯保証人の変更等の異動が生じた場合、速やかに申し出てください。

(7) 貸与奨学金の返還

貸与奨学金は、卒業後返還の義務があります。詳細は、貸与終了年度に配付される資料でご確認ください。

(8) 奨学金の返還免除 (大学院第一種奨学金のみ)

大学院において第一種奨学金の貸与を受け、貸与期間中に学問分野等で顕著な成果や発明・発見など、教育研究活動等で特に優れた業績をあげた者として日本学生支援機構が認定した場合には、貸与期間終了時に奨学金の全額または一部の返還が免除される制度があります。

8. 2 その他の奨学事業団体

民間等の各種奨学団体が奨学生の募集を行っており、これらの奨学金には、給与と貸与があります。

募集一覧は名古屋大学ポータル及び工学部・工学研究科のホームページに掲載し随時更新しています。募集期間が短いものが多いので、頻繁に確認してください。

○全学の学生対象のもの：名古屋大学ポータル TOP → 学生生活 → 事務手続 → 学生支援 → 民間奨学財団奨学金、地方公共団体奨学金

○工学部・工学研究科学生対象のもの：工学部・工学研究科 TOP → 在学生の方へ → 経済支援関係 → 民間奨学金 → 民間奨学金募集一覧

8. 3 授業料免除申請について

[1] 授業料免除の概要

(1) 高等教育の修学支援新制度

令和 2 年 4 月より、大学等における修学の支援に関する法律に基づき、留学生を除く学部学生を対象とした新しい修学支援制度が始まりました。

この制度は、日本学生支援機構の「給付奨学金 (詳細は、20 ページ参照)」及び「授業料等の減免」の 2 つの支援から

なります。

- (2)私費外国人留学生、大学院学生を対象とした授業料免除

私費外国人留学生および大学院学生のうち、経済的理由などにより授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合は、本人の申請に基づき選考の上、授業料が免除されることがあります。

免除の額は、各期分の授業料の全額又は半額となります。

- [2] 授業料免除申請方法及び申請時期

申請資格及び申請に関する手続き時期等の詳細については、本学ホームページおよび工学ホームページへの掲載、各学科・専攻事務室の掲示板等への掲載により周知します。

- [3] 徴収の猶予等

授業料の免除申請を行った場合は、免除の許可・不許可を決定するまでの間は授業料の徴収を猶予しますが、全額免除とならなかった場合は、本学が指定する日までに免除されなかった額を本学が指

定する方法で納入しなければなりません。

※猶予を希望する場合は授業料免除の申請の際に手続きをしてください。

■名古屋大学ホームページ：名古屋大学 TOP → 教育・学生支援 → 経済支援（授業料等免除・奨学金） → 高等教育の修学支援新制度、入学料免除及び徴収猶予、授業料免除

■名古屋大学工学部・工学研究科ホームページ：工学部・工学研究科 TOP → 在学生の方へ → 経済支援関係 → 入学料・授業料免除

8. 4 研究助成について

研究助成財団等からの募集案内については「名古屋大学研究協力部 研究事業課ホームページ jigyoka.aip.nagoya-u.ac.jp」に掲載しています。希望する際には、募集対象者を必ず確認し、指導教員の了解を得た上で応募してください。

また、本研究科では、「博士研究費」や「博士課程学生海外派遣助成」等の制度があります。

9. 健康管理・保険【学部・大学院共通】

9. 1 総合保健体育科学センター

名古屋大学総合保健体育科学センター内に保健管理室が設けられ、次の業務を行っていますので、利用してください。

- (1) 集団検診及びその事後措置
- (2) X線など各種検査
- (3) 診療
- (4) 身体及び精神に関する健康相談

9. 2 学生健康診断

(1) 定期健康診断

毎年春に行われる定期健康診断は、学生自身の健康管理上はもちろん、奨学金申請や就職等に必要健康診断証明書発行の場合に不可欠となるので、必ず受診してください。

なお、健康診断証明書は、定期健康診断の全項目を受診していない場合は、発行されません。

健康調査票記入、身長・体重測定、血圧検査、視力検査、内科診察、胸部X線撮影、尿検査、※感染症調査
※学部1年生

実施日時等、詳細は掲示等により周知します。

(2) 10月入学者を対象とした定期健康診断

(それ以外の学生は受診できません)

1年に1回、秋季に実施します。＊次年度からは4月に受診

(3) 特殊健康診断

i) 放射線を取り扱う実験実習等に従事する学生は特殊健康診断を受けなければなりません。

◆**新規従事者**は特殊健康診断を未受診の場合、**RI実験・講義**を受講できません。

◆**継続従事者**は問診受検票判定を受けなければ**継続従事**ができませんのでご注意ください。

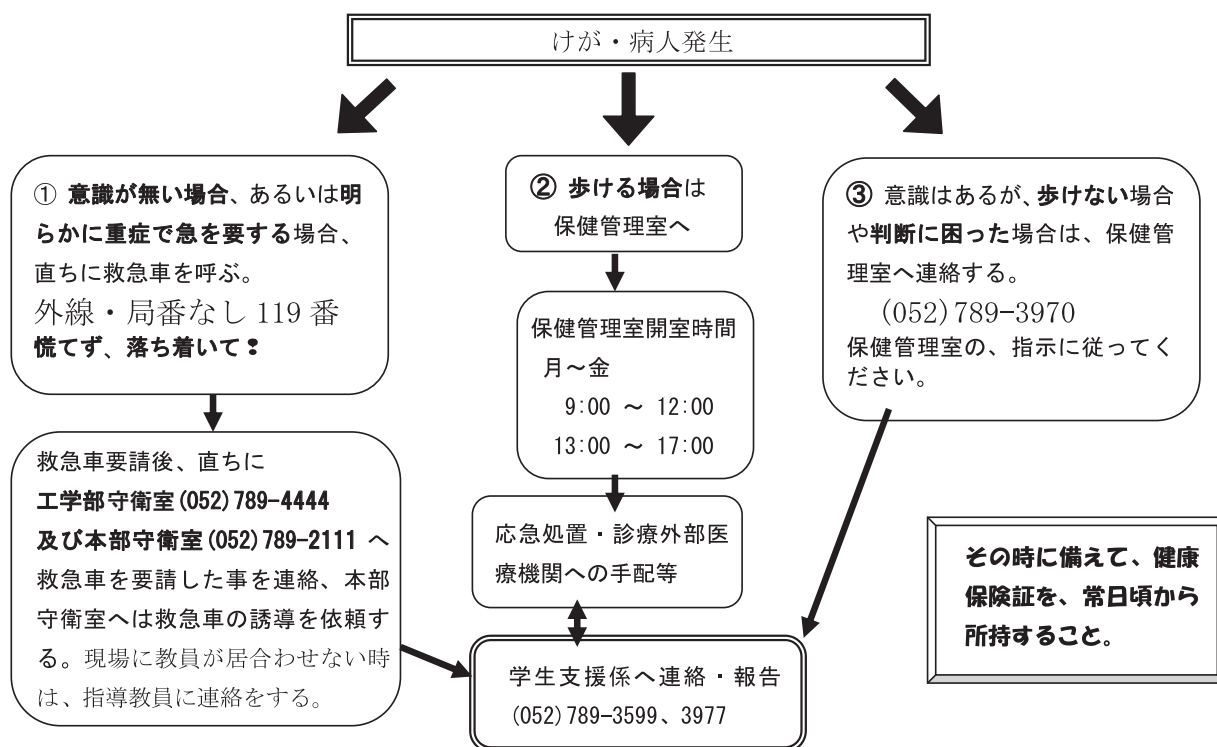
なお、問診票の判定には定期健康診断の受診が必要です。必ず受診してください。

実施日時等、詳細は掲示により周知します。

ii) 有害物質を取り扱う学生を対象とした特殊健康診断

実験・実習で有害物質(有機溶剤・特定化学物質等)を取り扱っている学生に対して、年1回10月に実施されます。

9.3 学内でのけが・病人発生時の対応



9.4 学生教育研究災害傷害保険

この保険は学生の実験、実習などの正課の授業中、学校行事中、課外活動中、大学の施設内における災害事故及び通学中、施設間移動中の事故に対する補償制度で、財団法人日本国際教育支援協会と国内損保会社6社との契約により実施されているものです。工学部・工学研究科の学生は入学時に全員が加入します（学部4年間、3年次編入2年間、博士前期2年間、博士後期3年間）。詳細については、「加入者のしおり」（加入時に配付）を参照してください。

なお、補償対象となる事由が発生した場合は、速やかに教務課に報告の上、事故通知はがき（教務課備え付け）を作成して保険会社に送付してください。一ヶ月以内に保険会社に連絡をしない場合、保険金が支払われない場合があります。

9.5 学研災付帯賠償責任保険

学生が、正課、学校行事及びその往復中に他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したことにより被る法律上の損害賠償を補償します。

工学部・工学研究科の学生は入学時に全員が加入します（学部4年間、3年次編入2年間、博士前期2年間、博士後期3年間）。他機関での研究実施、交流協定締結校への交換留学、インターンシップ参加時等に加入していることが条件とされることもありますので、未加入の場合は必ず加入してください。

なお、詳細については、「加入者のしおり」や名古屋大学学生便覧を参照してください。

また、補償対象となる事由が発生した場合は、速やかに教務課に報告してください。

9. 6 学研災付帯学生生活総合保険

学生教育研究災害傷害保険加入者を対象に
学生生活全般に補償を広げた保険で、学生教育
研究災害傷害保険で補償されない部分の補
償をするものです（加入は任意）。

<http://www.jees.or.jp/gakkensai/>



9. 7 名古屋大学生協の学生総合共済等につ いて

上記の保険とは別に、名古屋大学生協が学
生総合共済、学生賠償責任保険等を斡旋して
います（加入は任意。9.4 ～ 9.6 の保険とは
無関係です）。

10. 各種国家試験，資格試験

国家試験には、必要な授業科目の単位を修得してかつ条件を満たせば予備試験が免除されるもの、あるいは必要な科目の単位を修得して、所定の実務経験年数があれば申請によって免許を取得できるもの等があります。また、工学部の関連ある学科の課程を修めて卒業した者及び卒業後実務経験のある者が受験できる資格試験、あるいは在学中に受験できる資格試験もあります。工学部に関連する資格の種類（一例）及び取得要件について、以下のホームページに掲載されていますので、参照してください。

工学部に関連する資格の種類（一例）及び取得要件

工学部・工学研究科ホームページ TOP → 在学生の方へ →
学生生活 → 学生便覧 → 各種国家試験、資格試験

なお、国家試験の取得要件等の詳細については、各自で関係団体への問い合わせや市販されているガイドブック等で必ず確認してください。

無線従事者及び電気主任技術者に関わる資格認定

無線従事者に関わる資格認定（第1級陸上特殊無線技士、第3級海上特殊無線技士）

無線従事者規則第31条第一項の規定により、工学部の電気電子情報工学科を卒業した者で、必要な授業科目を履修してその単位を修得した者は、申請によって第1級陸上特殊無線技士あるいは第3級海上特殊無線技士の免許を取得することができます。

工学部・工学研究科ホームページ TOP → 在学生の方へ →
学生生活 → 学生便覧 → 無線従事者及び電気主任技術者に関わる
資格認定

11. 大学院での授業と研究

名古屋大学大学院にはいくつかの研究科があり、工学研究科はその一つです。工学研究科には18の専攻があります。

名古屋大学大学院通則には本学大学院の目的として、①学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与するとともに、②学術の研究者、高度の専門技術者及び教授者を養成することを目的とする、とあります。学生は教員とともに研究に参加し、かつ教授を受けて②の対象者として育つのです。このように大学院では学部と異なり、研究の要素が大きくなります。以下に規程を含めた概略を記します。

1) 研究科の課程と標準修業年限、在学年限

研究科の課程は博士課程と呼ばれ、標準修業年限は5年です。前期課程(2年)と後期課程(3年)に区分され、前期課程は修士課程とも呼ばれています。

前期課程においては、審査を経て合格すれば、1年6ヶ月で短縮修了することができます。

後期課程においては、審査を経て合格すれば、3年を経ず、短縮修了することができます。最短では前期課程と後期課程の合計3年間で修了することも可能となっています。

在学年限は、前期課程は4年、後期課程は6年です。

2) 授業科目及び研究指導

前期課程においては各専攻の授業科目を30単位以上、後期課程においては、一部の専攻を除き、8単位以上修得しなければなりません。また指導教員から研究指導を受けます。指導教員の指導のもとに学修計画を立て、入学又は進学後1ヶ月以内(10月入学者も同じ)に研究科長に提出します。

授業科目の履修にあたっては、学期初めに履修手続きをしなければなりません。Webを活用した教務システムで履修登録を行う必要がありますが、名古屋大学ポータル

名古屋大学ポータル
(<https://portal.nagoya-u.ac.jp>)



タル(<https://portal.nagoya-u.ac.jp>)にアクセスし、履修を希望する科目を入力してください。履修手続きの詳細については、その都度掲示や工学研究科のホームページで周知するので、特に学期始めの掲示等には十分注意してください。

3) 他専攻、他研究科、他大学院の授業科目の修得

教授会の認定又は定めにより、標記他専攻等の授業科目の修得が可能です。

4) 他の大学院等における研究指導

この研究指導の認定は、教授会が行います。

なお、上記項目3)及びこの項目については留学の場合にも休学することなく準用できます。

5) 学位

前期課程を修了すれば修士(工学)の学位が、後期課程を修了すれば博士(工学)の学位が授与されます。

上記及びその他の詳細については、名古屋大学大学院通則、名古屋大学大学院工学研究科規程等を参照するとともに、指導教員に相談してください。

12. 関係規程

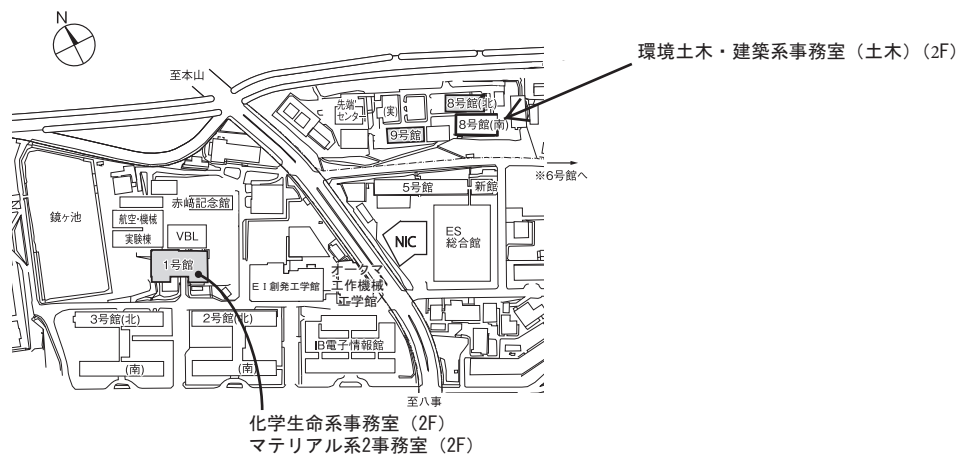
名古屋大学通則、名古屋大学大学院通則及び、名古屋大学入学料の免除並びに授業料の免除及び徴収猶予に関する規程は、名古屋大学のホームページで閲覧できます。

名古屋大学規則集

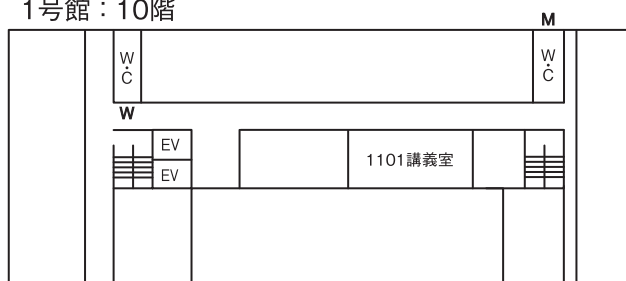
名古屋大学ホームページ TOP → 大学概要 → 基本情報 → 規則集

13. 講義室等配置図

工学部1, 8, 9号館



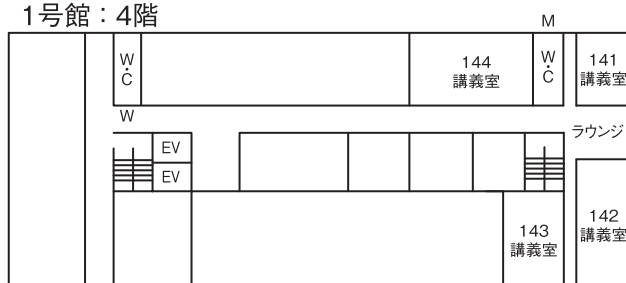
1号館：10階



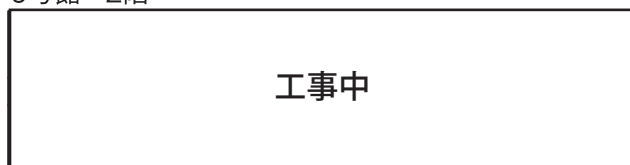
8号館 (南棟)：1階, 2階



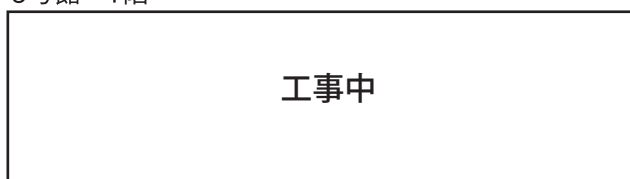
1号館：4階



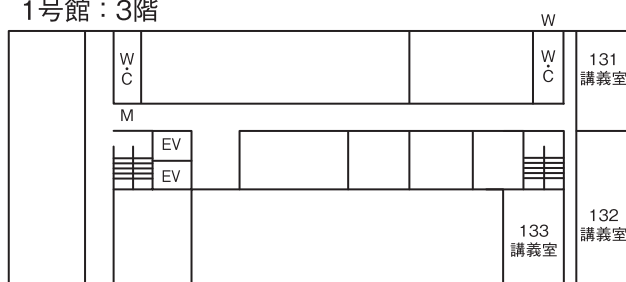
9号館：2階



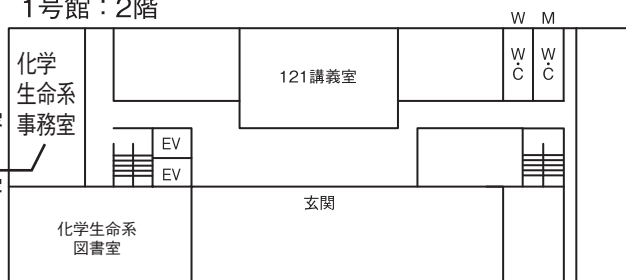
9号館：1階



1号館：3階



1号館：2階

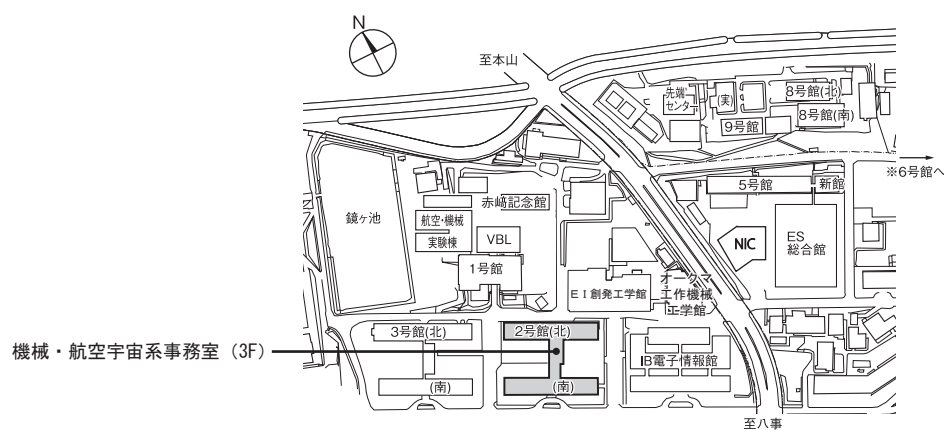


化学生命系事務室
(052) 789-4276,
2660
マテリアル系2事務室
(052) 789-5281

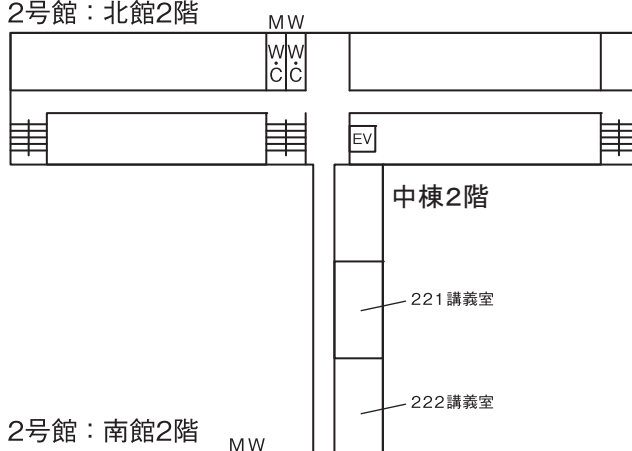
化学生命系
図書室

玄関

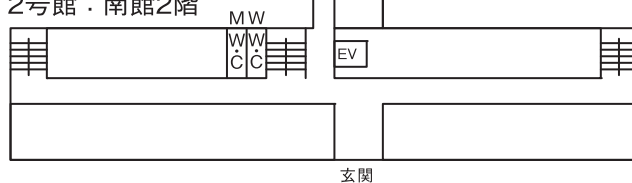
工学部 2 号館



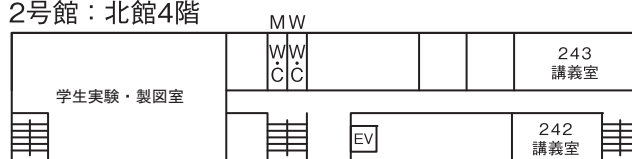
2号館：北館2階



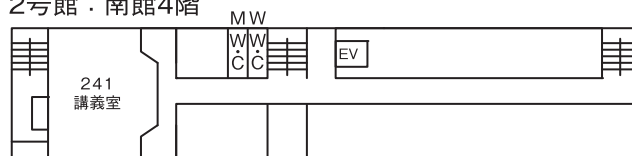
2号館：南館2階



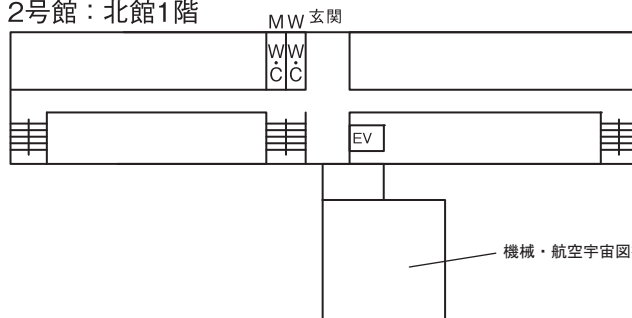
2号館：北館4階



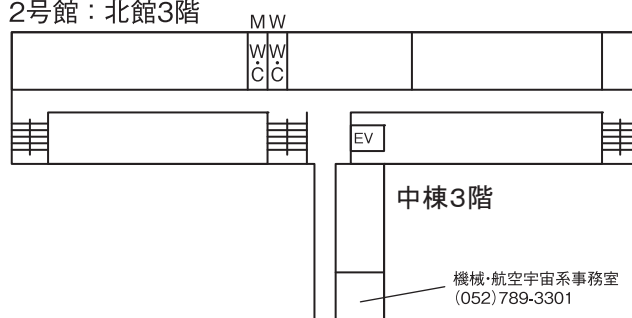
2号館：南館4階



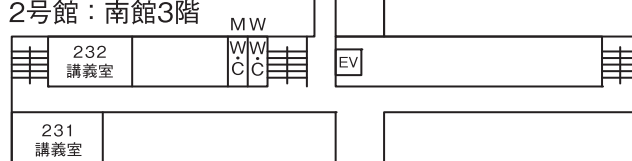
2号館：北館1階



2号館：北館3階

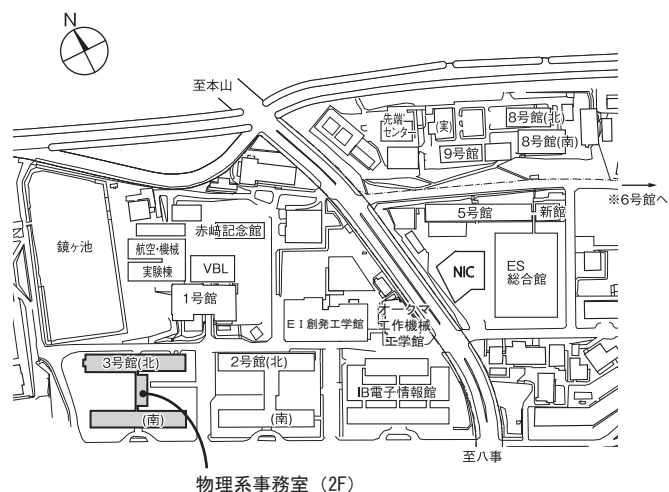


2号館：南館3階

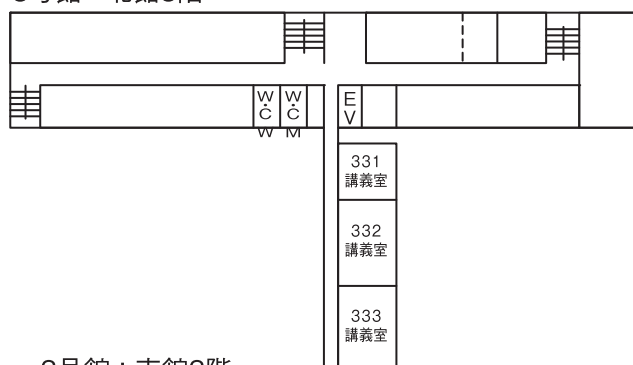


M—男
W—女

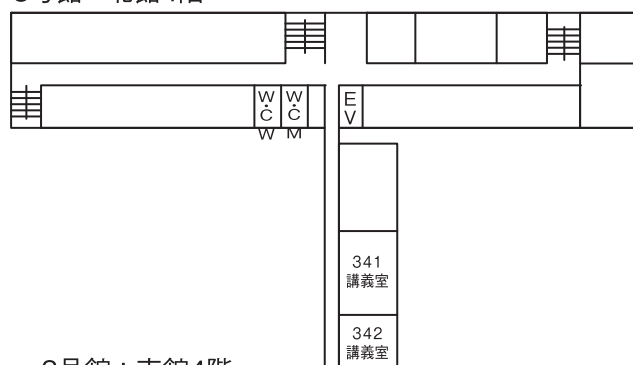
工学部 3 号館



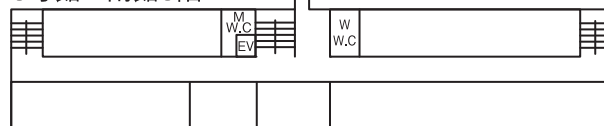
3号館：北館3階



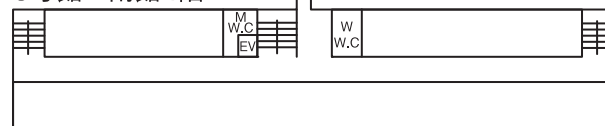
3号館：北館4階



3号館：南館3階



3号館：南館4階



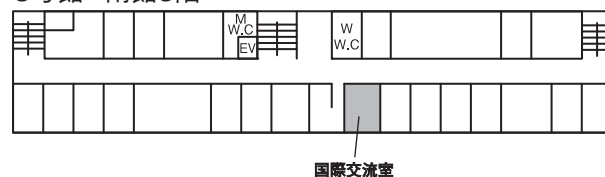
3号館：北館2階



3号館：南館2階

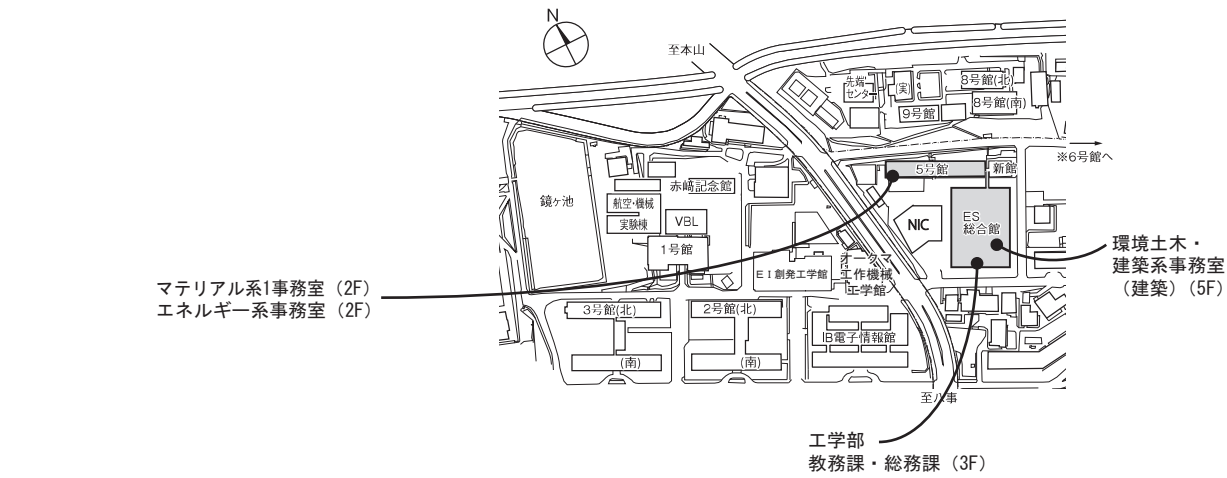


3号館：南館5階

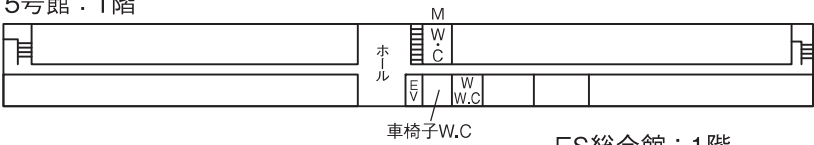


M—男 Man
W—女 Woman

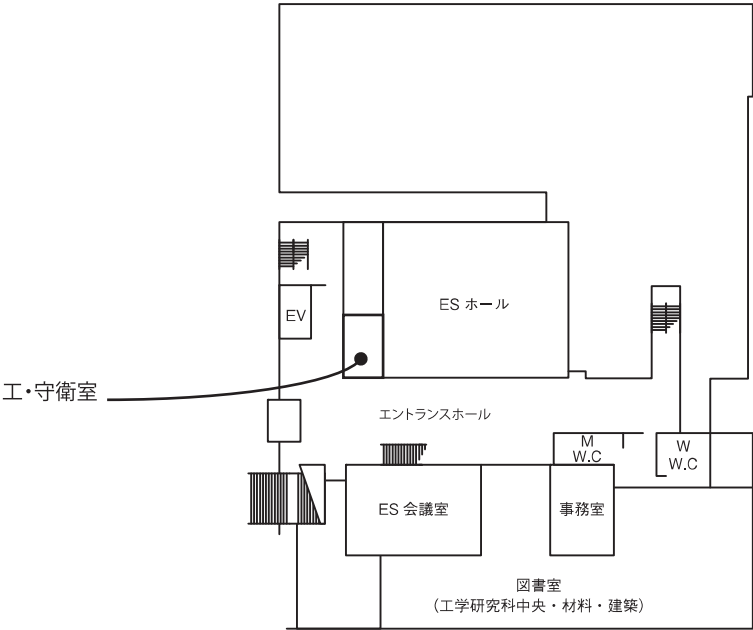
工学部5号館, ES総合館



5号館：1階

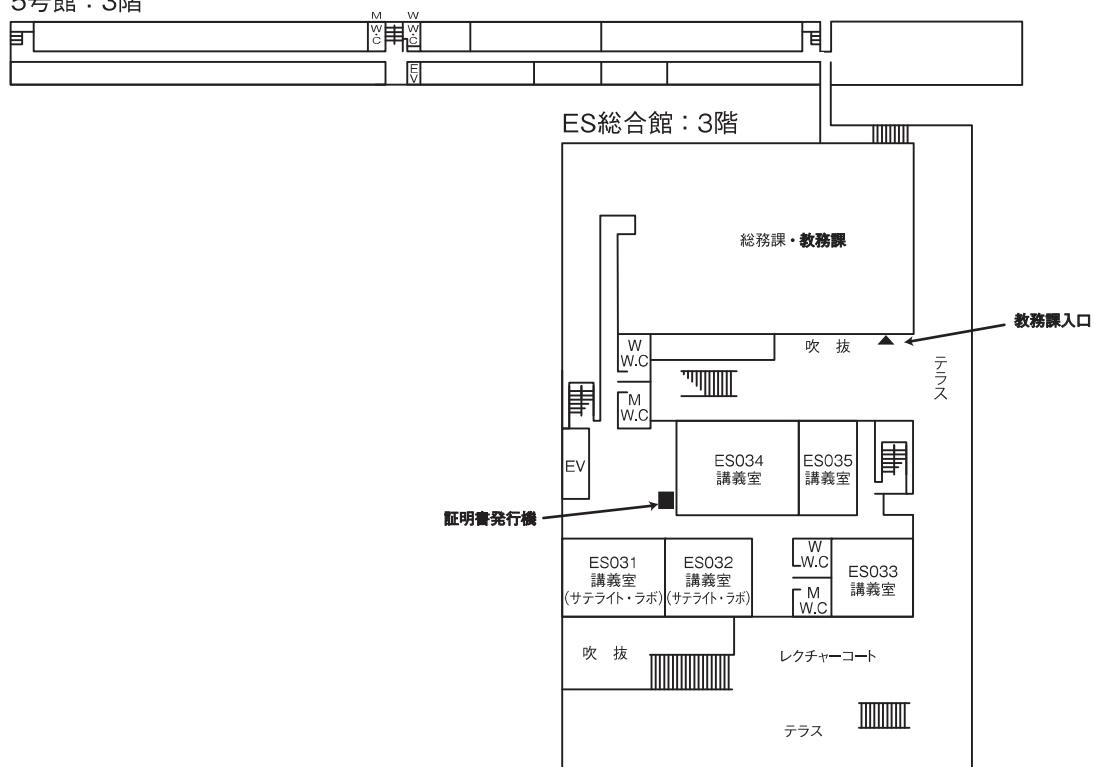


ES総合館：1階

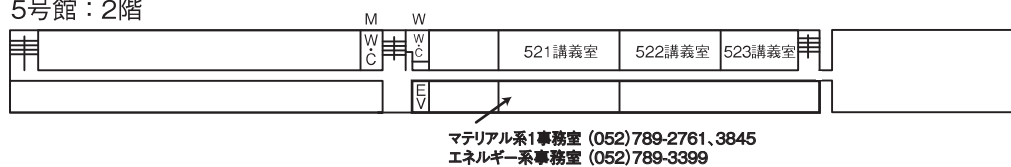


M—男
W—女

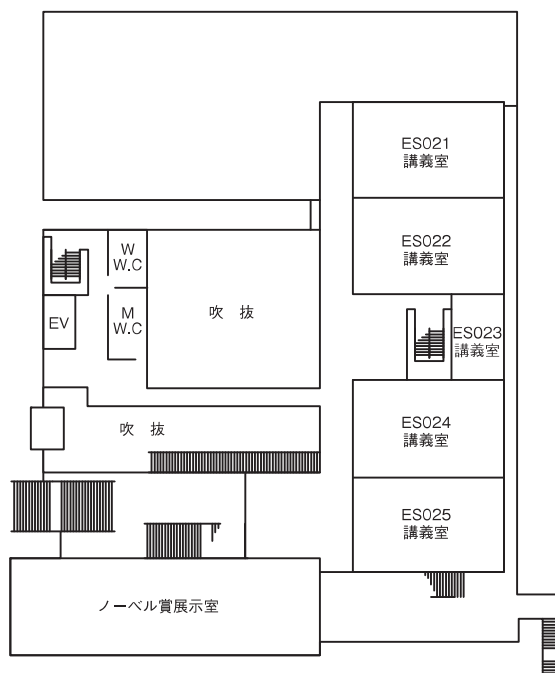
5号館：3階



5号館：2階



ES総合館：2階

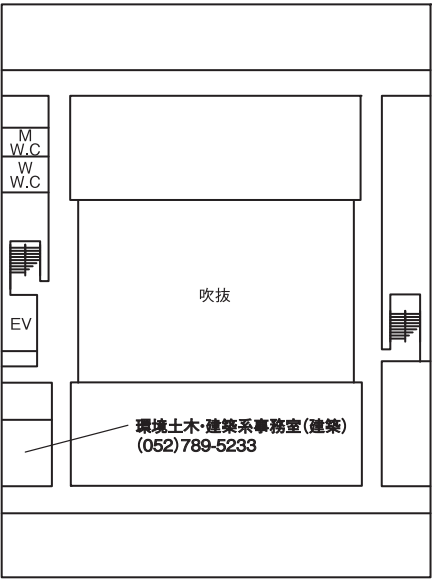


M-男
W-女

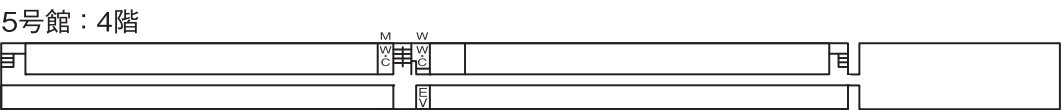
5号館：5階



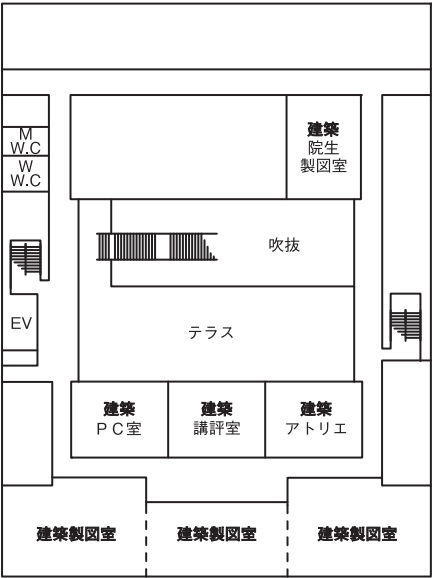
ES総合館：5階



5号館：4階

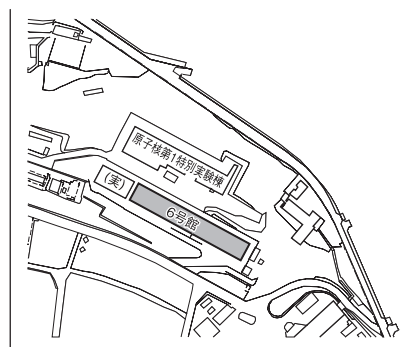
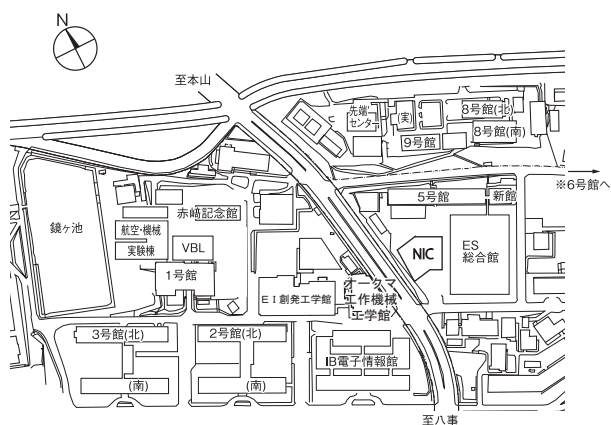


ES総合館：4階

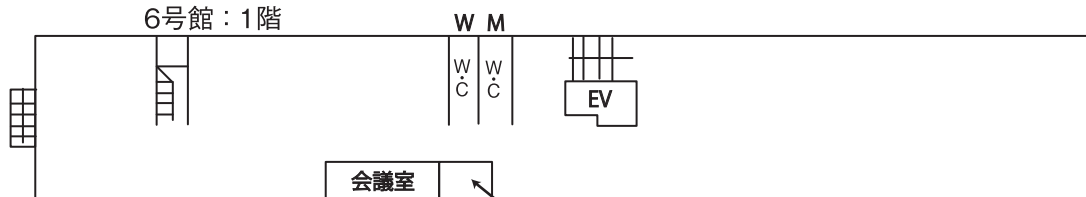


M-男
W-女

工学部 6 号館

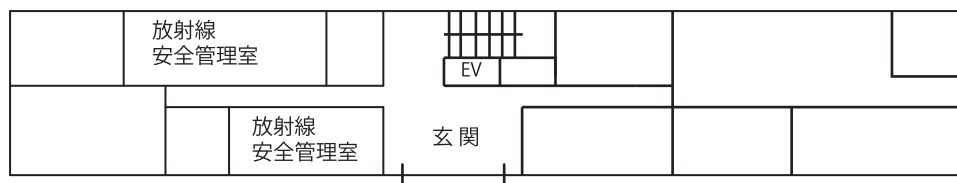


6号館：1階



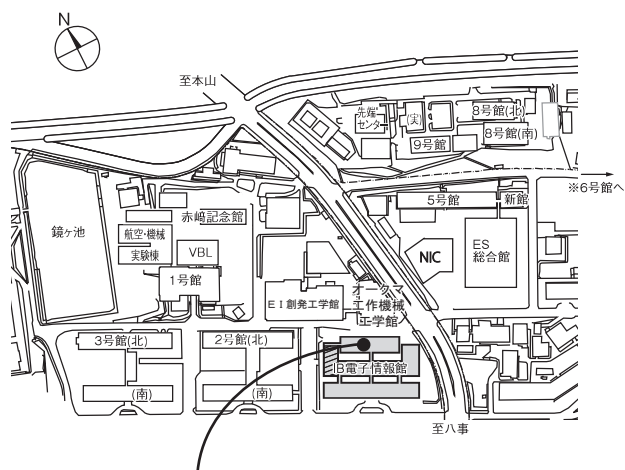
エネルギー系学生実験室

6号館：地階



M－男
W－女

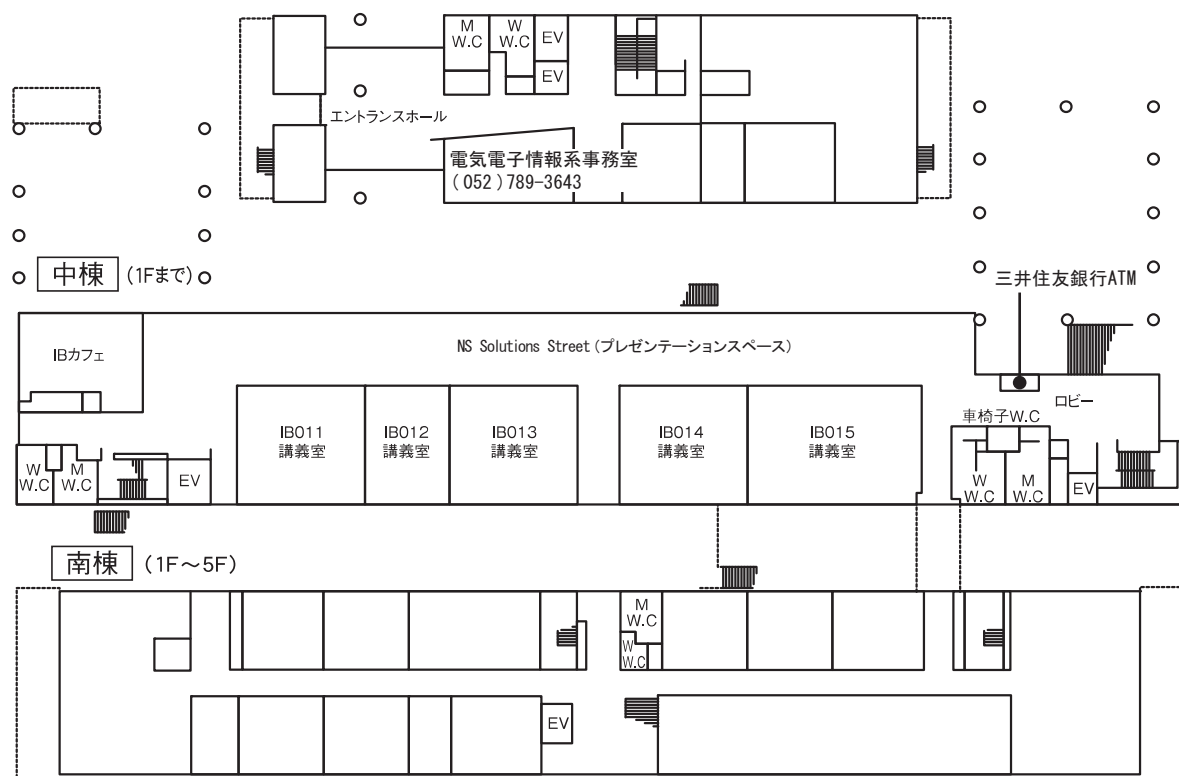
IB 電子情報館



IB電子情報館1階

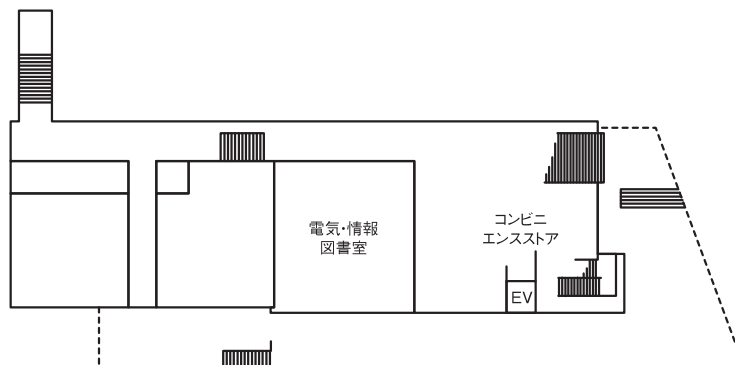
北棟 (1F～10F)

電気電子情報系事務室 (1F)



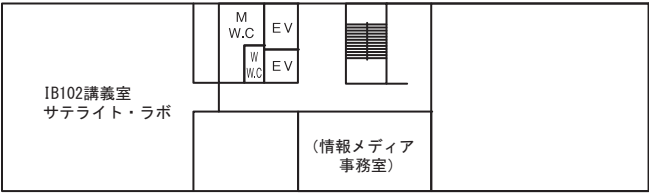
南棟 (1F～5F)

IB電子情報館中棟
地階

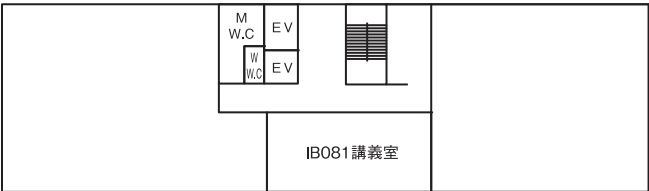


Mー男
Wー女

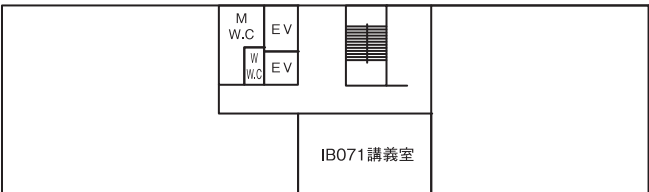
IB電子情報館北棟 10階



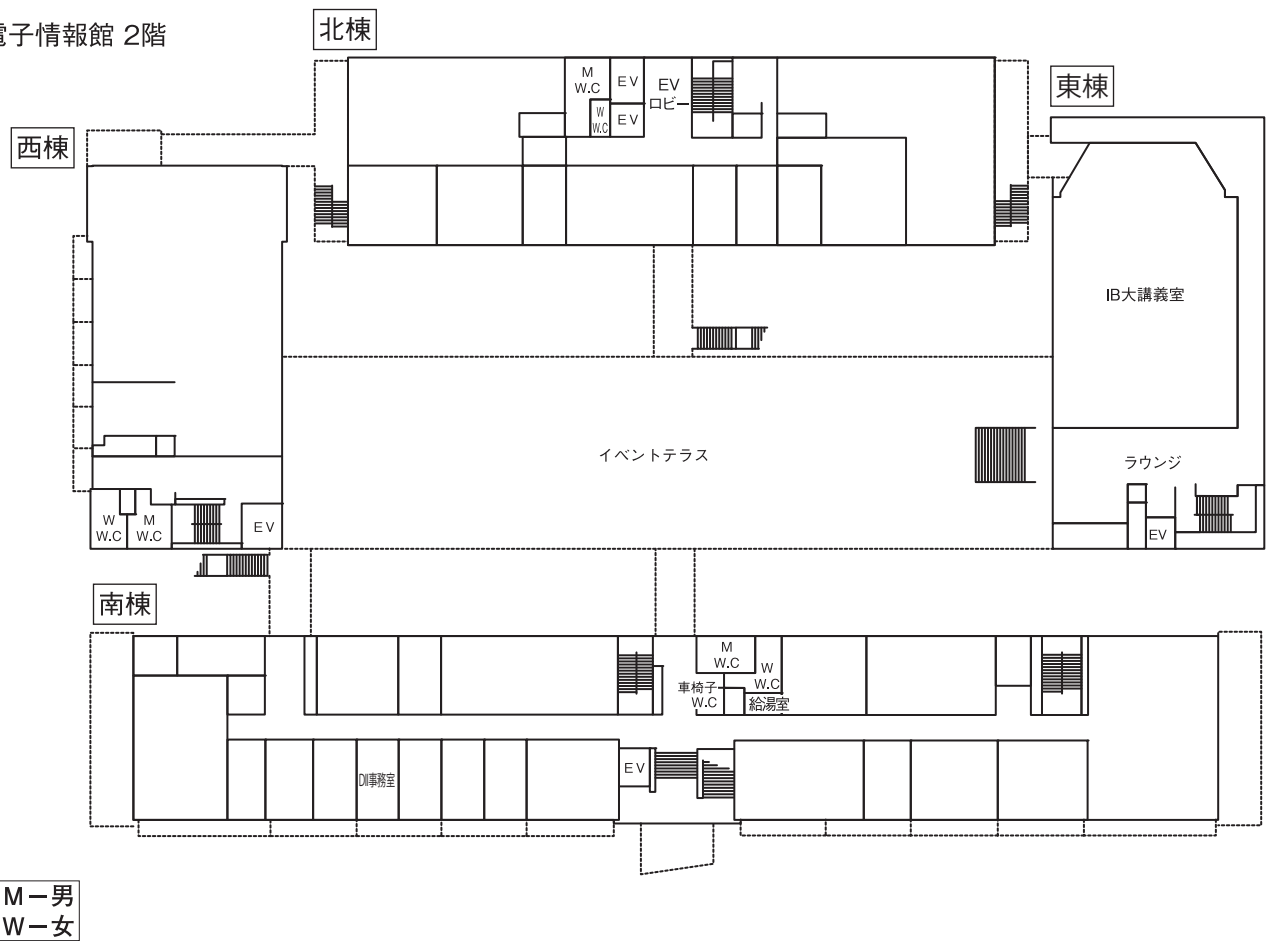
IB電子情報館北棟 8階



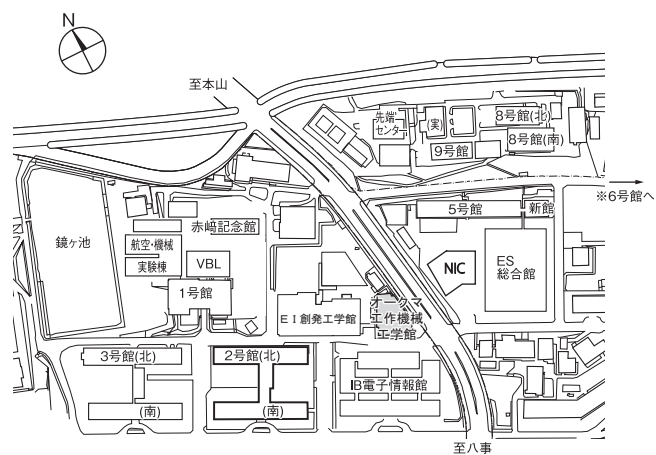
IB電子情報館北棟 7階



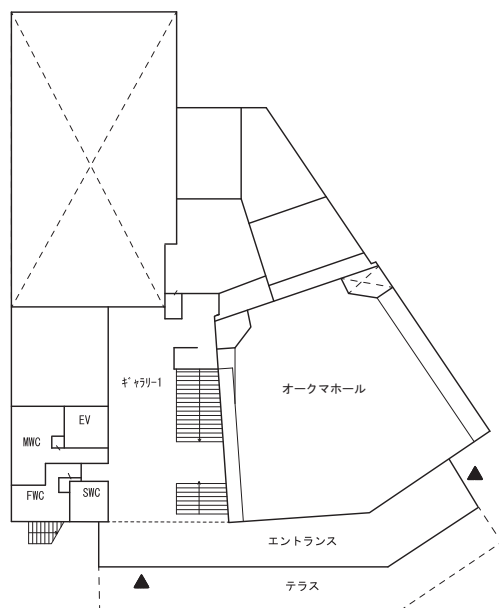
IB電子情報館 2階



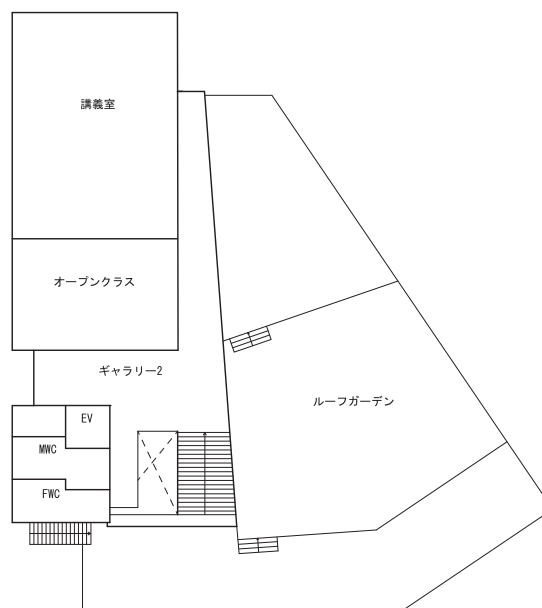
オークマ工作機械工学館



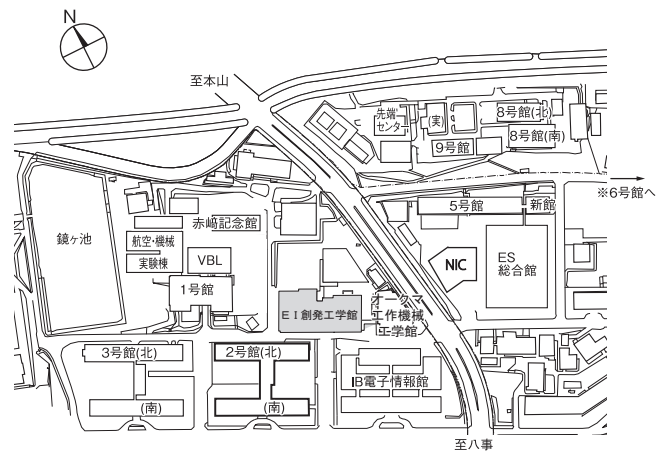
オークマ工作機械工学館1階



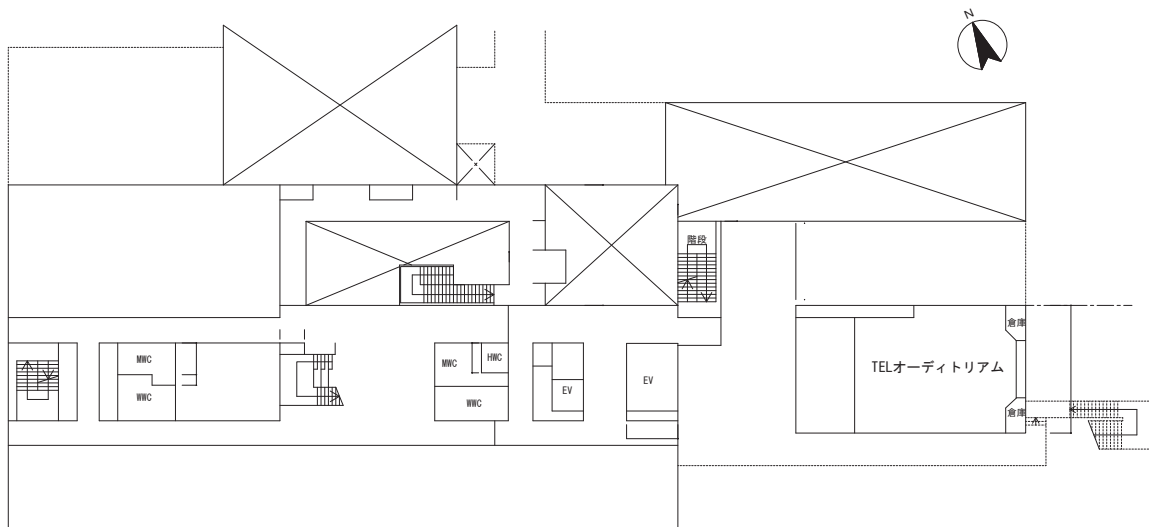
オークマ工作機械工学館2階



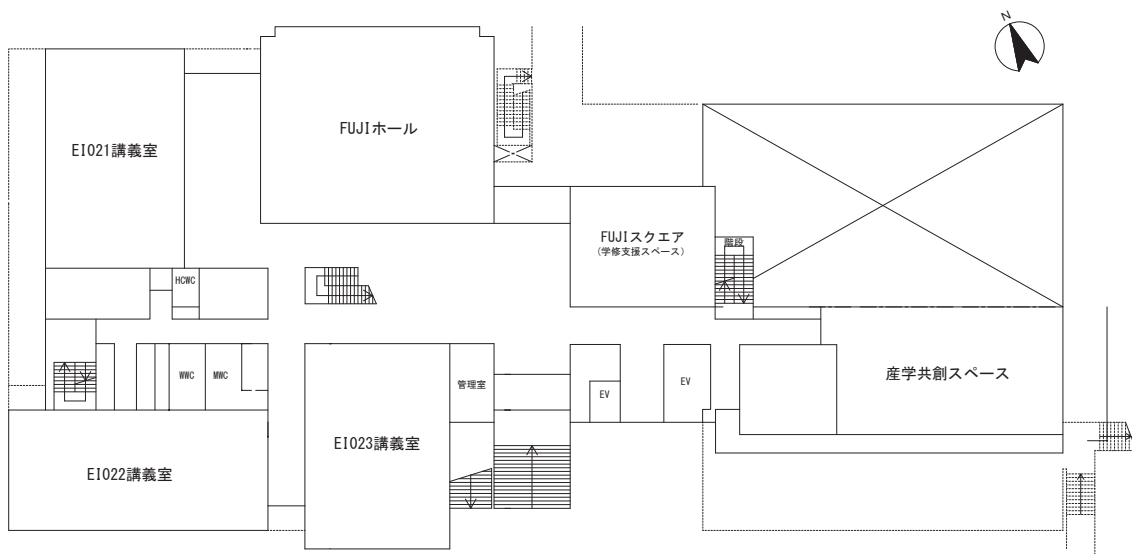
EI 創発工学館



3F



2F



キャンパス MAP

HIGASHIYAMA

工学部が位置する東山キャンパスは、名古屋市東部の丘陵地にあり、総面積698,000㎡、東京ドーム約15個分という広大な広さを誇ります。日ごろ学ぶ講義室や研究室から、学びをさらに深め知的好奇心を満たす図書館や記念館、学生生活を支援する生協・コンビニ(ファミマ)・郵便局・銀行ATMからスタバをはじめとするカフェまで、各種施設が充実。学びはもちろん、あらゆるキャンパスライフに思う存分打ち込める環境が待っています。



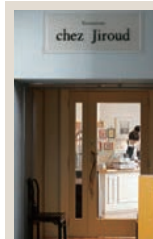
工学研究科中央棟 (ES総合館)

全館LED照明や自然換気システムをはじめとした、環境負荷低減のための多くの取り組みが実現されている。工学研究科の中核施設のひとつ。建築系の研究室、講義室やホール、工学部中央図書館などがあります。



工学中央図書館 (ES総合館1F)

工学部の図書館は、中央図書館および4つの専攻図書館があります。専門書を中心に約20万冊の図書・雑誌を所蔵しています。



レストラン シェジロー (ES総合館1F)

知る人ぞ知る、本格的フレンチレストラン。光あふれる店内で、季節の素材を使った本格的なフレンチを気軽に楽しめます。学生はもちろん学外者の利用もOKです。



シアトルエспレスカフェ

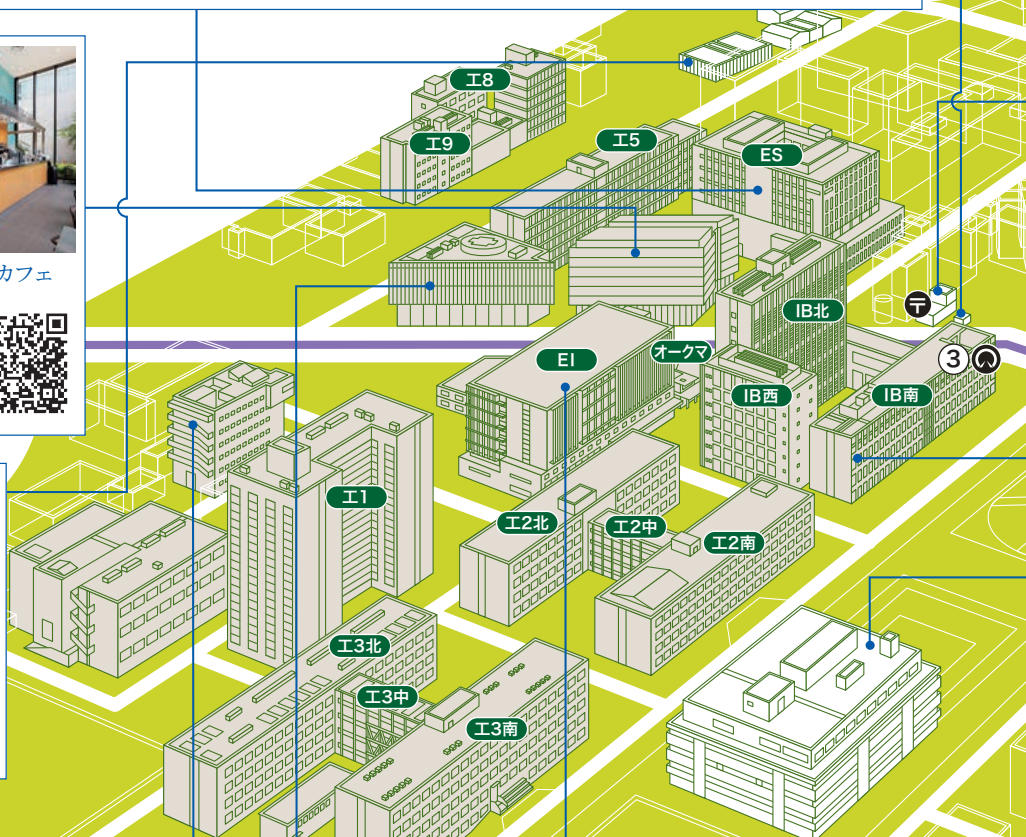
ナショナル・イノベーション・コンプレックス施設(NIC)

NICは、「地域結集」と「グローバル展開」を推進する新しい時代の産学官連携研究開発拠点です。産学官メンバー及び市民が一体となり、我が国の未来を支え、かつ、世界の生活に新しい価値をもたらすイノベーション実現のための「場」と「しくみ」を提供します。



ダイニングフォレスト/Booksフロンテ/Cafeフロンテ

東エリアにあり、食堂・ブックショップ・カフェからなる、生協の複合施設。工学・理学・農学系の学生で賑わっています。



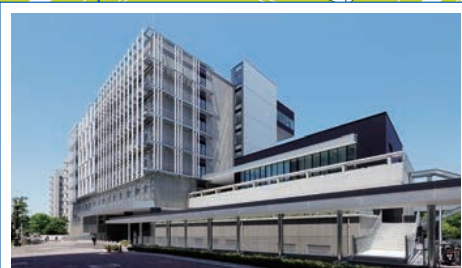
赤崎記念研究館

光の3原色のうち最も難しいとされた青色のLEDを開発したことで世界的に知られる赤崎勇特別教授の研究業績を公開した施設。



減災連携研究センター (減災館)

南海トラフ巨大地震の危険性が指摘される東海地方で、地域の防災・減災機能を強化するための施設です。防災・減災に取り組む人づくりや産官学民の連携を進めるため、研究者はもちろん、市民、行政、企業が集う拠点とし、2014年度から本格稼働しました。



EI創発工学館

分野を融合した創発工学の創出と産学連携の推進、地域連携グローバル人材育成の拠点として、令和5年に完成。実験室・研究室・講義室などがある教育研究棟と、北側の食堂・購買などがある北部厚生会館で構成されています。





銀行ATM

三菱UFJ銀行のATMコーナーを開設。生協やコンビニ内にも設置されています。



郵便局

正式名称は「名古屋大学内郵便局」。ATMもあれば貯金や保険の窓口もちゃんとあります。

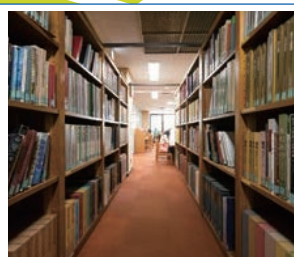


豊田講堂

1960年トヨタ自動車工業(現トヨタ自動車)により寄贈された講堂。1600人を収容でき、名古屋大学のシンボルとして、入学式など多くのイベントに活用されています。



地下鉄名城線「名古屋大学」駅



附属図書館

附属図書館は、中央図書館および各学部・研究所等に置かれた部局図書室から成っています。蔵書数は全学で332万冊。館内は、グループでの共同学習、プレゼンの練習などができるラーニング・コモンズ、衛星放送が視聴できるAVブースなどの施設も充実しています。



スターバックスカフェ(附属図書館2F)

図書館の開館日に合わせ、平日は夜9時まで開いてるし、土日営業(不定休)。いつも学生や教職員で賑わっています。



IB電子情報館

地下鉄名城線「名古屋大学」駅3番出入口から直結しています。講義室やホールのほか、電気工学専攻、電子工学専攻、情報・通信工学専攻の研究・実験室などがあり、カフェやコンビニもあります。



IBカフェ

IB館南館1Fにあるカフェ。



ファミリーマート

IB館B1を含め、学内に2店舗あり。7:00~23:00まで営業しています。

名古屋大学
IB館店



工学部・工学研究科関連施設

- ES** ES総合館 工学部・工学研究科総務課、教務課
環境土木・建築 建築系事務室
- IB北** IB電子情報館北 電気電子情報系事務室
- IB南** IB電子情報館南
- IB西** IB電子情報館西
- EI** E創発工学館
- E1** 工学研究科1号館 化学生命系事務室
- E2北** 工学研究科2号館北
- E2中** 工学研究科2号館中 機械・航空宇宙系事務室
- E2南** 工学研究科2号館南
- E3北** 工学研究科3号館北
- E3中** 工学研究科3号館中 物理系事務室
- E3南** 工学研究科3号館南
- E5** 工学研究科5号館 マテリアル系事務室、エネルギー系事務室
- E6** 工学研究科6号館
- E8** 工学研究科8号館 環境土木・建築 土木系事務室
- E9** 工学研究科9号館
- オークマ** オークマ工作機械工学館
- ①~③** 地下鉄①~③番出入口



2025 年度

学 生 便 覧

2025 年 3 月 発行

編集・発行

名古屋大学工学部・工学研究科

〒464-8603 名古屋市千種区不老町

TEL 052 (789) 3599・3977

